

# 第8次中国省長訪日代表団の滞在記録

平成24年（2012年）4月17日～21日

全 国 知 事 会

## 目 次

1	行程表	1
2	日中知事省長フォーラム日本側参加者名簿	2
3	日中知事省長フォーラム中国側参加者名簿	3
4	日中知事省長フォーラム概要	4
5	共同宣言	58

### 資 料

1	中国省長訪日団参加者プロフィール	60
2	中国省長訪日団参加地域概要	62
3	日中知事省長交流事業一覧表	75

## 日中知事省長交流事業行程表

- 4月17日（火） 第8次中国省長訪日代表团 来日
- 4月18日（水） 川端達夫総務大臣表敬訪問（総務大臣室）  
川端達夫総務大臣及び山口壯外務副大臣主催歓迎昼食会  
第1回日中知事省長フォーラム(知事会会議室)  
野田佳彦内閣総理大臣表敬訪問（首相官邸）  
全国知事会会長主催歓迎晩餐会  
（ホテルニューオータニ ザ・メイン「芙蓉西の間」）
- 4月19日（木） 埼玉県内視察  
埼玉県環境科学国際センター視察  
上田清司埼玉県知事主催歓迎昼食会  
オリックス資源循環株式会社視察
- 4月20日（金） 京都市内視察  
仁和寺視察  
山田啓二京都府知事主催歓迎昼食会  
けいはんなプラザ視察  
（株）国際電気通信基礎技術研究センター  
京都府副知事主催夕食懇談会
- 4月21日（土） 第8次中国省長訪日代表团 帰国

## 日中知事省長フォーラム日本側参加者

2012年4月18日

都道府県会館三階知事会会議室

全国知事会 会長

京都府知事 山田 啓二

新潟県知事 泉田 裕彦

埼玉県知事 上田 清司

長野県知事 阿部 守一

高知県知事 尾崎 正直

佐賀県知事 古川 康

鳥取県知事代理 副知事 藤井 喜臣

島根県知事代理 副知事 小林 淳一

福岡県知事代理 副知事 海老井 悦子

熊本県知事代理 副知事 兵谷 芳康

## 日中知事省長フォーラム中国側参加者

2012年4月18日

都道府県会館三階知事会会議室

張 毅 (ちょうき)

寧夏回族自治区書記

李小林 (りしょうりん)

中国人民對外友好協會會長

努尔·白克力 (ヌル・ベクリ)

新疆維吾尔自治区主席

李 斌 (りひん)

安徽省省長

竺延風 (じくえんふう)

吉林省常務副省長

林念修 (りんねんしゅう)

広西壮族自治区副主席

# 日中知事省長フォーラム概要

日時：2012年4月18日（水）13：30～17：30

場所：都道府県会館3階 全国知事会会議室

## 1. 主催者挨拶

日本側主催者挨拶（全国知事会会長 山田啓二 京都府知事）

張毅団長、李小林会長をはじめ、中国代表団の皆さま、ようこそ日本にお越しいただきました。全国知事会を代表して、まず心から歓迎を申し上げます。また程永華中国駐日特命全権大使、そして日本政府からは山口外務副大臣にもご臨席をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。

1972年に日本と中国の国交が正常化して以来、日本と中国の世界における役割や、お互いの位置関係が大きく変化する中、人と人との交流につきましては、今、劇的にどんどん広がっていく、交流が深まっていく現状がございます。そして、40周年という記念すべき年に、こうして多くの中国の省や自治区の代表の皆さまをお招きし、日中知事省長フォーラムを開催できますことを、心からうれしく思っております。

本来ですと、昨年はこの会議を開催する予定でありましたけれども、ご存じのように昨年は、日本を未曾有（みぞう）の大災害であります、東日本大震災が襲いました。この震災におきまして、震災直後から救援隊の派遣や義援金など、中国の人民の皆さまから、本当に、大変な温かいご支援を賜りましたことに対しまして、改めて心からお礼を申し上げます。ようやく1年という時が過ぎ、日本も復興再生への着実な道をたどっているときに、今回、私たちは今一度日本と中国の関係を深めるために、日中の知事・省長会議を開催することができました。

1974年の第1回の交流事業以来、長い交流の歴史がありますが、今回、私どもは新たなその交流の歴史に、大変画期的な1ページを付け加えることができると確信しております。日中の交流は、この10年におきまして、本当に劇的な進化を遂げております。昨年は震災の影響もありまして、かなり交流が減りましたが、10年前の2001年と2010年を比べますと、日中の交流人口が10年間で約200万人増加しております。

それは一部の人の交流ではなく、まさに地域と地域との交流が深まった証しであると思っております。そしてこの交流を基にして、今回の日中知事省長交流会議は、新たにフォーラムの開催という1ページを開くことができました。今までは相互訪問により交流を深

めてまいりましたが、交流を通じてお互いに議論して、新しい1ページを共に切り開いていこうという、今回のフォーラムは、これからの日本と中国との関係に、グラスルーツの、大変しっかりとした基礎を作る、大きな1ページになると確信しているところです。

そうした面で、本日のフォーラムが成功裏に終わりますように、ご参加の皆さまに対しまして心からご協力をお願い申し上げますとともに、ご出席の皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念して、私の開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうかよろしくご願ひ申し上げます。

**中国側主催者挨拶 中国人民対外友好協会会長 李小林**

尊敬する日本全国知事会山田会長、尊敬する日本外務省山口副大臣、尊敬する中国地方代表団団長 寧夏回族自治区 張毅書記、そして程永華大使、また、中国の各省からいらっしやいました省長、日本の各知事の皆さま、副知事の皆さま、ご来席の皆さま、こんにちは。

本日、第1回目の日中知事省長フォーラムがここで開催されます。私は中国側の、このフォーラム開催担当団体であります、中日友好協会を代表いたしまして、中日双方の省長、知事の皆さまに感謝申し上げ、ご来場になりました皆さまに感謝申し上げます。

また、今回のフォーラムが順調に進むためにご苦勞されました関係者の皆さまに、心からの敬意を表します。日本側の主催者の皆さま、日本全国知事会は、このフォーラムのために非常に周到なご用意をされ、ご苦勞されてまいりました。これについても心から感謝申し上げます。

今年は中日国交正常化の40周年です。両国の指導者が実施、今年を中日国民交流友好年と決めました。中日関係は新しいスタート地点に立ちました。そして、新しいチャンスに恵まれています。われわれこの協会は、日本の知事会とともに、1978年からお互いの省長知事を派遣し合うような協力関係を保ってまいりました。今年はわれわれ協会が、この40周年を記念した形で、心をこめてこの中日知事省長フォーラムを準備してまいりました。

そして、主旨としましては、この省長知事の交流のプラットフォームを作り、両国の政府および各地方政府など、いろいろな方面において交流を進めることにあります。そして、それによって両国の政府の間の相互理解を深めていきたいということを目ざしております。このフォーラムを準備するにあたりまして、初期のころから各方面の重視を受けてまいりました。

私は十分に、この日中友好の地方政府を結び付ける橋梁（きょうりょう）として力を発揮し、両国の政府が共通一致した事柄を進め、実質的な交流を深めていきたいと考えております。そしてこのフォーラムが中日のパートナーシップ発展のために、独特な役割を果たすことを期待しています。

中国の指導者が、日本の、地方の政府の首長の方々とお会いするたびに、地方の間での交流が、日中の交流の非常に重要なことであるということを強調してまいりました。40周年にあたりまして、中日関係は発展のときもありましたが、さまざまな障害に直面することもありました。しかしながら、この人民の交流も貿易の交流も常に保たれ、生き生きとした交流が続けられてまいりました。

これまで日中両国は、省、県、および友好都市など、249組の関係を作ってまいりました。日本は、海外との友好都市の中で、一番数が多い国です。そして、このような両国の基礎を固めるとともに、人民の友好関係を促進し、地方の経済を発展させる上でも、非常に重要な役割を果たしてまいりました。今年には第12次5カ年計画という年になっております。そのエネルギー環境、グリーン、生態保護といったものが、中国の経済発展の新しいポイントになります。

日本はこういう分野において、非常に進んだ技術に恵まれており、豊かな経験を積んでおられます。中国には大きな市場、チャンスがございます。また、両国は災害の防止などに関して、また、観光や地域の産業など、いろいろな分野において、ともに深めていくニーズがあります。これはわれわれにとって、今は非常に重要な時期にあります。このような非常に恵まれたチャンスを生かし、さらに交流を密にし、協力を深くし、両国人民の幸福のみならず、両国関係を健全に進めて、発展させていきたいと考えております。

最後に、中日両国の地方政府が、この知事省長フォーラムにおいて十分に話し合い、心を開いて話し合うことができるように、心から願っております。また、このようなフォーラムにおいて、花を咲かせ、実質的な成果を上げられることを期待しております。そして40周年の記念に新たな、豊かな色彩を添えることができると願っております。ありがとうございました。



## 2. 来賓挨拶

日本側来賓挨拶 外務副大臣 山口壯

こんにちは。外務副大臣の山口壯と申します。今日はこのフォーラムを開催するにあたって、本当に大勢の方にお世話になったと思います。本当にありがとうございます。こうして今日、来賓として来させていただいていますが、山田会長、また李小林会長、中日友好協会の本当に多くの方々のご努力、ご尽力に、本当に心から感謝したいと思います。

私は今日、野田総理に「どうしても」と言っていたのですが、今、集中審議で国会のほうをやっていますので、来られません。申し訳ありません。メッセージを預らせていただいていますので、読み上げさせていただきます。

「張毅寧夏回族自治区書記、李小林中国人民対外友好協会会長、ヌル・ベクリ新疆ウイグル自治区主席、李斌安徽省省長、竺延風吉林省副省長、林念修広西壮族自治区副主席をはじめとする、中国側代表団の皆さまの訪日を心から歓迎いたします。また、山田全国知事会会長をはじめとする、日本側の知事の皆さまのご努力にも感謝を申し上げます。現在、まさに国会で集中審議が行われており、このフォーラムに駆け付けることができず、残念です。本日、国会での審議後に短時間でも皆さまにお会いさせていただければと存じますので、お待ち申し上げます。

さて、本日は日中知事省長フォーラムの開催に際し、心からおよろこびを申し上げます。日中国交正常化 40 周年を目前に控えた昨年 12 月末、私は中国を訪問しました。その際、胡錦濤国家主席および温家宝総理との間で、日中両国が協力のパートナーとして地域およびグローバルな課題に、ともに取り組むことが重要であり、日中間の 4 つの基本文書を踏まえ、日中戦略的互惠関係をしっかりと発展させていくことが重要との認識で一致しました。

そして、日中国交正常化 40 周年である本年を日中国民交流友好年、新たな出会い、心の絆として、全面的な国民間交流を推進することで一致しました。今年の日中間での取り組みにおける重点分野の一つとして、地方間交流が挙げられています。現在、日中間では、約 340 組の友好都市関係がありますが、本日のフォーラムは日中地方間交流の象徴的な行事だと思います。各地方の観点から見た日中関係、各地方ならではの発想を存分に生かし、日中関係に新たな活力を注いでいただきたいと思います。また、本フォーラムを契機として、お互いがそれぞれの良いところをくみ取り、地方間交流が一層促進され、日中関係の裾野がさらに拡大し、堅固になることを心から期待しています。

本フォーラムに尽力された皆さまに感謝を申し上げますとともに、この会場にいらっしやっている皆さまと一緒に、日中間の絆を一層深めていきたいと願います。」

中国側来賓挨拶 中華人民共和国駐日本国特命全権大使 程永華

尊敬する知事の皆さま方、山田会長、本日は両国の15の省、自治区、県の知事省長が一堂に会しました。このフォーラムが開催される運びとなりまして、中国大使館を代表いたしまして、開催に対して心から祝意を表します。そして、行き届いた準備を行っていただきました全国知事会、そして中国側の関係団体の関係者に感謝申し上げます。本年は中日国交正常化の40年に当たります。40年間、高速な発展が遂げられました。そして、4つの政治文書が調印され、政治的な基礎を作りました。最初は10億ドルの貿易額しかありませんでした。人員も300万人ほどでしたけれども、今日は数倍、数十倍の規模で増えております。中日関係の発展は両国の人民、それぞれの社会、経済の発展に、非常に実務的な利益をもたらしました。そして世界の平和と安定に重要な貢献をしています。

地方の交流は両国の国家関係の発展の、重要なモチベーションにもなっています。中国の天津と神戸市が最初の姉妹都市として提携しました。この40年、友好都市、姉妹都市が増え、各国のモデルともなっています。双方が親せきの付き合いのように、人文、スポーツ、社会のさまざまな分野における交流を行ってまいりました。そして影響力を拡大してまいりました。また、国民感情の改善、友好を深めることで、大きな役割を果たしました。

とりわけ四川汶川大地震、東日本大震災が起きた際には、いち早く各自治区、各地方団体が支援を表明し、支援を行い、苦難を共にしました。これは両国の関係史上の記念すべき、特筆すべき1ページだと思います。私は、大使として日本のいたるところを訪問させていただきました。そして深く感じたのは、各地域が中国を非常に重視しているということを感じました。そして積極的に力を入れているということを感じました。

今年に入って、各市、各県間の交流が非常に増えています。吉林、浙江、湖北など、中国の省から大型代表団を組織し、多様な形式の交流活動を行っています。40周年を記念するために、両国政府が国民交流友好の年のイベント開催を決めました。やはり交流を深めるのが主旨です。そして、この交流のイベントには30以上のプロジェクトが決定されています。そして省、県間の交流も重要な一環をなしています。このような重要な時期に、第1回日中知事省長フォーラムの開催が、重要な意味を持っていると思います。

それでは、いくつかの提案をさせていただきたく思います。1つはチャンスをつかえて、

融合できるポイントを押さえること。そして、関係を深めることです。現在、中国も日本も重要な経済発展の段階に入っています。中国は積極的に第12次5カ年計画、経済方式の転換、合理的、科学的な発展をはかっています。一方日本は、積極的に震災後の復旧活動に力を入れています。両国がそれぞれの特徴を生かして、互換し合う関係を築くべきです。重点的に省エネ、環境保護、低炭素経済、科学、高齢者社会の取り組みなどについて、さまざまな提言や提案ができるかと思います。

第2は、文化交流に力を入れるべきだと思います。そして、民意の基礎、国民感情に力を入れるべきです。この方面については、非常に良い環境ができています。交流人口が増えています。両国は非常に近い位置にありますし、文化面も似通っています。観光、文化、交流において、今後はさらに多様な形式の交流、深く、それぞれの文化の価値を掘り下げて、心に響くような文化活動の企画を提案したいと思います。

3つ目としては、信頼を高めて、一時的なものに振り回されることなく、動揺することなくしてほしいと思います。ここ数年、国民感情が非常に低レベルで低迷していました。これは安保上の信頼、あるいは領土問題の信頼不足が大きく取り上げられていることに由来しています。しかし、友好という大きな方向というのは、雑音に影響されるべきではありません。われわれは、いかに相互信頼の増進、友好の成果をいかに強調・アピールすればいいか、知恵を絞るべきです。

この知事省長フォーラムというのは、双方の交流の新しいプラットフォームだと思います。新たな内容が加わるものだと思います。実務的な協力、効率のよい交流を通じて、実りのある成果が上がることを期待しています。このフォーラムを、常に新しいものとして築いてほしいと思います。

最後になりますが、円満な成功をお祈りいたします。私の挨拶は以上です。ありがとうございました。

### 3. プレゼンテーション

#### (1) 全国知事会会長 京都府知事 山田 啓二

よろしくお願いたします。私のほうからは、観光についての提案をさせていただきたいと考えております。今、観光は、日本と中国の間で大変大きな伸びを示しております。この10年間を見ましても、実は京都は日本でも有数の観光地であり、年間7000万人を超える観光客を迎えておりますけれども、その中において外国人の観光客は、この10年間で約2.5倍になりました。今、100万人ぐらい、割合で言えば70人に一人ぐらいです。

そして中国からの観光客は、この10年で3倍になっております。実はこうした時こそ、観光というものを通じて、新しい日中の友好というものを築き上げる大きなプラットフォームを作ることができるのではないかということ、本日は提案申し上げます。

京都は新しい日中友好のため、観光を通じた交流を3つの観点から作れるのではないかと考えています。

1点目は文化です。普通、観光と申しますと、珍しいその土地のものを、おいしいものを食べ、お土産物を買って帰るという形ですが、中国から京都に来られると、文化というものについての両国の理解を深めることができる、大変有意義な場所であると思っております。

なぜならば、京都というところは1200年前、当時の中国の都でありました、唐の長安を模して作られた都市です。ですから、もともとは中国の文化を輸入してつくった都です。実は今、その長安は西安と名前を変えておりますけれども、西安は中世の頃に城壁都市として新たに別の場所に作られており、昔の長安はすべて畑の中になっております。したがって、中国の方々が昔の長安の面影を見るとしたら、京都が今、最適な場所になっているわけです。

しかし、その中において日本の文化というものは、まったく違う発展を遂げております。私はいつも思うのですが、北京に行って、京都に帰ってまいりますと、なぜ北京は何でも大きくつくるんだらうと。それに対して京都は、どうしてこんなに小さく作るんだらうというふうに思います。

それはやはり、両国の持っている違いではないかと思っております。今でも京都では、山の稜線をさえぎる建物はつくらない、自然と一体となった都市づくりを行っています。環境と調和する都市づくり。これは環境という面での観光というものについても、大きな魅力を持っていますが、それ以前に日中の文化の共通点と違いを理解する上で、京都は最適

の機会を提供できると思っています。それこそが日中間の理解を深める上で、大変素晴らしい場所であるということ、自慢するわけではありませんが、感じています。ぜひとも京都という場を通じて、これからも日中両国の文化についての相互理解を進めていきたいと考えています。

2点目ですが、もう1つ観光を通じてわれわれが提供できるのは、若い人たちの交流です。京都には年間100万人の子どもたちが、修学旅行、教育旅行という形で訪れます。今の季節、これからの季節は、京都は子どもたちであふれかえるのですが、ぜひとも私はそこに、中国の若い人たちに来ていただきたいのです。それによって、京都を舞台にして、日中の交流、若い人たちの交流を生み出すことができます。

実は京都は、日本で人口あたりの大学が一番多く、大学生が一番多い地域です。約15万人の学生が学んでおり、40を超える高等教育機関があります。留学生は今、約6000人で、まだまだ数は少ないんですけども、これからさらに多くの留学生が京都に集うことによって、日本の大学生との交流を通じ、教育を通じて、次の若い世代がしっかりと日中の友好関係を築きあうことができる地域です。この教育観光の交流というものが、私はこれからのフェース・トゥー・フェース、顔の見えるグラスルーツの交流を積み重ねる上で、大変大きな力を発揮することを確信しております。

3点目は産業観光です。京都は古い都でありますけれども、同時に新しい産業がたくさんございます。これは長い1000年のものづくりの歴史の中で、例えばつぼなどの陶器作りから、セラミックを利用した絶縁物質を使った新しい産業が興る。織物が大変有名なんですけれども、その織物の技術を利用して、半導体のプリンティングの技術が生まれる。京都はお酒造りも有名ですけれども、そこからバイオの会社が生まれる。

こういう具合に、京都には多くの産業が芽生えています。そして京都の南には、関西文化学術研究都市というサイエンスパークが国の法律によって設置されています。そして、多くの中小企業があります。京都に観光に来ると同時に、インセンティブツアーや産業ツアーを中心として、新しいものづくりの交流を生み出すことができます。観光産業を通じた文化の交流、教育を通じた若い人の交流、ものづくりの交流。観光というものは、単に見て、食べて、帰るだけではありません。心の交流、人の交流、次の未来を開く交流という側面をこれから創り出すことができると思います。

京都には有名な雨中嵐山の碑があります。周恩来元首相の歌碑がございます。周恩来首相は京都において、雨の中、非常に悪い天候でございました。そこに霧がかかって、緑は

美しいんですけども、当時、若い周恩来首相はまだまだ前途に対して大変な不安を感じておられました。そのとき、雲の間から一筋の光が差ししてきた。この雨中嵐山の詩のように、これからの日中関係に、観光を通じて多くの光が差し込むような関係を築いていきたていと思います。この日中の知事省長フォーラムを通じて、観光という側面から、また多くの交流が生まれることを心から願い、私のプレゼンテーションとさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

## (2) 寧夏回族自治区書記 張 毅

尊敬する山田啓二会長、山口外務副大臣、李小林会長、程永華大使、各知事、各省長の皆さま、こんにちは。うらかな春、4月に美しい東京で今回のフォーラムに出席できますことを、大変うれしく思っております。日本全国知事会、全中国対外友好協会の方々、今回のフォーラムに向けたきめ細かい、ゆき届いたご手配に感謝申し上げます。特に野田総理のご挨拶にも感謝申し上げます。

地方政府間の交流・協力というのは、中日関係発展の重要な推進力だと思います。去年の12月、野田総理は成功裏に中国を訪問されました。両国政府は国交正常化40周年を記念するために、2012年に中日国民交流友好年活動を行うことを決定しました。そして、中国と日本の関係をさらに発展させていくことを決めました。平和と発展は、今の世界のメインテーマです。一衣帯水の近隣として、中国と日本はさらに世界の平和と繁栄のために、積極的な貢献をするべきだと思います。

歴史からも分かりますとおり、中国と日本はお互いに戦えば傷付け合うことになり、お互いに協力すれば利益があるということになります。そして、両国の人々の共通の願いにも合致するものです。中国と日本の友好年の活動をきちんと行っていくために、地方政府の人たちはリードしていかなければならないと思います。この友好という主題のもとに、各レベルでの友好交流関係を行っていききたいと思います。中日友好に資するものであれば、努力してやっていききたいと思います。そして、中日両国の友好に資するものでないものは行わないというふうにして、お互いの友情をさらに高めていききたいと思います。

中日両国の友好関係をさらに健全に発展させるために貢献していききたいと思います。友好都市の交流は、地方政府交流協力の主なルートだと思います。寧夏では一貫して日本の友好都市との交流活動を非常に重視してきました。1993年には寧夏と島根県が、1994年には石嘴山市と浜田市が、それぞれ友好締結を結びました。寧夏と島根はこの関係を構築し

て以降、人民代表大会や政治協商会議など、関係者が日本を訪問し、また、島根県の知事、副知事、県議会議長なども寧夏を訪問されました。お互いに農林、牧畜、環境保全、文化、教育、衛生などの分野で、幅広く協力を行っております。日本側とともに友好交流を通じて、お互いの理解と信頼を深めたいと思っています。そして両国民の友好感情を強化し、双方の各事業の共同発展を促しただけでなく、日中両国全体の関係のさらなる産業を推進したと思っています。

また、産業協力の強化は、日中の戦略的互惠関係構築の重要な構成部分です。地方政府間の交流は、日中両国の戦略的相互信頼を深めることにつながり、産業間の協力は日中両国の戦略的互惠を深めることとなります。1990年代以降、日本の企業は寧夏に次々と進出し、自治区内の企業と合弁、独資あるいは技術提携といった形で協力を展開してきました。主に工作機械やファンの製造、石炭の高度加工、マグネシウム合金加工や、鋳造などの分野です。日本は、寧夏で投資をしている企業の、ほとんどの経営状況が良好であり、かなりの業績を上げております。さらに両国の政府間の協力を強化し、さらに推し進めるために、3つほどの提案をしたいと思っています。未熟なものもありますけれども、提案したいと思っています。

まず1つ目に、日中両国政府が戦略的対話をより一層強化し、戦略的互信を深め、重点産業分野の共同研究を強化し、マクロの面から非政治的な障害を取り除きたいと思っています。

2つ目に、日中両国の業界協会、企業連合会などの社会組織が交流を拡大し、各分野における積極的な協力展開を推し進めていきます。業界の協会など、社会的組織が、両国企業が協力する際に政策的な指導を行い、リスク管理や仲立ち、橋渡しなどのサービスを積極的に提供していきます。

また3つ目に、日中の地方政府が交流をより一層強化し、友好都市ルートを通じて、協力展開のためにさまざまな情報支援を積極的に提供していきます。そしてなかなか情報がミスマッチであるといったことを解決していきたいと思っています。東日本大震災が起こって1年以上たちましたが、それにより日本の人々にかかりの被害がもたらされたことに対し、心からのお悔やみを申し上げたいと思っています。これは人々が共通に立ち向かわなければならない災害です。わが国でも何度も地震が起こっております。私は中国と日本の間で、防災の面において、さらに協力を強化したいと思っています。そして地震が人類に及ぼす損失や影響を最低限にとどめたいと思っています。

知事の皆さま、省長の皆さま、第1回の知事省長フォーラムが成功裏に行われること、そして地方自治体との友好が深まることの、新たなプラットフォームになることを希望しています。そのために私たちは手を取り合い、地方政府の交流を通じて、両国の産業分野の協力を深め、さらに中日の戦略的互惠関係のさらなる発展・推進のために積極的貢献をしたいと思っております。ありがとうございました。

### (3) 埼玉県知事 上田 清司

張毅寧夏回族自治区共産党委員会書記、李小林中華人民對外友好協會會長はじめ、皆さまにはようこそ日本においでいただきました。こうして中華人民共和國地方政府のトップの方々との意見交換ができますことを、大変うれしく思います。早速、本日のテーマであります、地方政府間交流の促進と日中関係の発展について、埼玉県の立場から少しお話しさせていただきます。

まず、地方政府間交流の促進ですが、埼玉県は1982年に山西省と友好提携を結んで以来、ちょうど30周年になります。県内でも10市が中国のそれぞれの都市と友好提携を結んでいます。県と山西省との付き合いの中では、農業、医療、環境などの分野で、山西省から埼玉県へ、のべ200名以上の方々技術研修に訪れています。そして埼玉県から100名以上の専門家を山西省に派遣してきました。一方、教育の分野では埼玉県から山西大学に2007年から奨学生を派遣する制度を創設するようお願いしましたところ、当時の于幼軍省長から快く引き受けいただき、5年間で20名の、本県の奨学生が山西大学への留学の機会をいただいているところです。

こうした交流の実績が評価され、2010年には中国人民對外友好協會から対華友好都市交流協力賞を受賞させていただきました。大変誇りに思うところでございます。山西省との交流が今年10月で30周年を迎えますが、本年、私たちも県民あげて山西省を訪れて、友好と経済交流の可能性をさらに深めていきたいと思っています。

改めて日中間の交流を見ますと、ちょうど山西省との交流が始まった30年前、日中間の往来は年間二十数万人であったものが、2010年には約20倍の約540万人になっています。また、日中間の貿易総額が3400億ドルで、30年前の実に40倍です。まさに経済がグローバル化する中で、とりわけ日本と中国の関係は密接なものがございます。ホンダやカルソニックカンセイなど、埼玉ゆかりのグローバル企業がすでに中国に進出していますが、優れた技術力を持つ県内の中小企業の中にも、中国でおいに活躍したいという考え



方を持っておられる企業がたくさんあります。そこで2010年11月に埼玉県は、上海にビジネスサポートセンターを開設し、中国進出の中小企業の支援も行っているところでございます。こうした形で、県内企業もすでに中国国内で、大変大きく、幅広い活動をしているところです。

最後になってきますが、埼玉県の観光についてもお話しさせていただきたいと思っております。「とにかく旅行日程を詰めて、忙しく観光したい」といったら「埼玉県へ」という話になります。とにかく車で東京から小一時間。電車でも30分という距離にあります。フランスのミシュラン社が発行する旅行ガイド『ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン』で「身も心もリラックスできるおすすめの名所」として紹介された長瀨は、激しい急流の刺激的な水しぶきを浴びるような空間、同時に、ゆったりとした岩肌を眺めていく流れも楽しむことができ、ライン下りでは全国で人気ベスト4に評価されているところです。

また、東京にはもう江戸はありません。400年前に開設された江戸幕府の面影は一つも残っておりませんが、埼玉県には小江戸といわれる、川越市という所があります。ここには江戸時代の商家の町並みが現在も残っておりますので、「日本の江戸時代とはどんなものだったのか」ということを、わずか1時間程度で見に行くことができるという、400年前へのタイムスリップを1時間でできるという好位置にあるところでございます。

最後になりますが、こうした地方間の交流は、大変重要だと思っております。国と国では、ときには利害が衝突するようなときがありますが、まさしく地域と地域、あるいは個人と個人、また企業と企業、こうした交流は、末永い友情を保つことができます。こうした地方同士の友情と交流を深める中で両国の平和と安定、世界に対する貢献、ともにしっかりとやっていけるのではないかと考えています。

今回の企画をしていただきました皆さまに心から感謝申し上げ、第1回の知事省長フォーラムが今後、大きく発展するために、私たちも最大限に努力していきたいという決意でご挨拶にかえます。ありがとうございました。

#### **(4) 新疆ウイグル自治区主席 ヌル・ベクリ**

尊敬する山田会長、尊敬する山口副大臣、程大使、李会長、そしてご在席の皆さま、こんにちは。本日、第1回知事省長フォーラムに参加できまして、非常に得がたい機会を得られたことをうれしく思っております。ちょうど40周年を記念する年になりました。ここにおきまして、長きにわたり、この日中の友好、地方の交流のためにおおいに力を尽くさ

れました日本の各界の要人の皆さまに、心から感謝と崇高な敬意を表します。

中国の新疆は雄大で美しい土地です。中国で最も面積が広く、境界を接する隣国が最も多い省です。新疆は古来より、民族、文明、文化、さまざまなものが集まる地域でした。そして新疆は地球において、中国、インド、ギリシャ、イスラムの四大世界文明が合流する、唯一の地域であると指摘する専門家もいます。新疆は長い歴史の中で、国内外で有名な楼蘭王国、亀茲文化と高昌、交河古城の遺跡および、数多くの石窟芸術を残してまいりました。

また、中国新疆のウイグル 12 ムカムとキルギス族の英雄叙述詩『瑪納斯』は、ユネスコの人類の「人類の口承及び無形文化遺産」のリストに加えられました。そして、新疆には非常に特色ある民間芸術、そして古風な素朴さが感じられます。新疆ウルムチでは、2 度にわたり、国際民族舞踊フェスティバルを開催しました。そしてまた新疆は資源が豊かで、鉱山物や観光文化の資源が多くあります。また、新疆は中国が西に向かって解放を進める橋頭堡であり、中国から中央アジア、西アジア、南アジアおよびヨーロッパに通じる重要な門戸になっています。

新疆は常に経済成長を続け、10 年余り、10%以上のスピードを維持してきました。また中央政府としては、さらにいろいろな政策を使って、新疆の発展を進めようとしています。今、中国の 19 の省と市が新疆を支援し、それによって新疆は建設、解放、発展がおおいに進んでおります。中国の発展、新疆の発展が、必ずや中国と日本をはじめとする周辺国との間の、善隣友好協力に大きなチャンスと洋々たる前途をもたらすと信じています。

中日の友好には長い歴史があり、この友好は代々継承し、発展すべきです。新疆は対外交流を特に重視し、サポートしています。特に日本との交流が非常に良好であり、その交流、協力関係は拡大、進化しています。NHK は 1985 年、2004 年、2005 年にわたり、この新疆において、数回にわたってシルクロードという形で文化財、風土人情を紹介する番組を作製し、多くの日本の観光客を増やしました。

そして、自治区の政府文化顧問という形で任命されています、日本の友人であります小島康誉さまは、30 年間で 100 回以上も新疆を訪れ、1986 年には新疆キジル千仏洞の修繕費として 10 万元を寄付されました。小島氏はまた、双方のパイプ役として日中の尼雅遺跡の考古学調査や、ダンダンウィリク遺跡の学術研究などの成果を収められました。そして、こうした協力は生態環境の保護においても実現されています。日本の将来世代国際財団は 100 万ドルを寄付し、新疆トクスン県において、日中友好の生態防風林の建設プロジェクト

トを支援しています。これらはすべて日中友好の純然たる証であり、深い友情関係を表しています。

そして、中国の新疆と日本は、多くの分野で巨大な協力のポテンシャルがございます。また新疆は新型工業化を推進しておりまして、石炭発電・石炭化工、農産物の高度加工及び新エネルギー、新材料、新しい技術産業などの発展を加速するとともに、循環型経済とクリーン生産を積極的に推進しています。そして今年9月には第2回中国ーアジア・ヨーロッパ博覧会を開催する予定です。観光業をおおいに発展させ、各民族の優れた伝統文化の継承と推進に力を注ぎ、新疆の純然たる多彩な文化を世界に広げています。

日本の地方政府および関係各方面の皆さまとコミュニケーションを強化し、密接に協力し、さらに広い分野、高い次元において、より多くの実務的な友好交流を進めたいと思っています。そして日中の友好のために貢献していきたいと思っています。

第1回日中知事省長フォーラムが無事成功しますことをお祈り致します。ありがとうございました。

#### **(5) 新潟県知事 泉田 裕彦**

尊敬する李小林会長、尊敬する程永華大使、尊敬する張毅書記、および中国側の自治体の代表者の皆さま方、ようこそ日本にお越しくださいました。皆さま方のご訪問を心より歓迎申し上げます。

まず冒頭に、新潟のご紹介をさせていただきたいと思います。今年、日中国交回復 40周年の記念すべき年に当たりますが、その年にこのような日中地方政府間交流ができますことを、深く感謝申し上げます。新潟県は当時、周恩来首相と田中総理の間で、日中国交回復がなったわけですが、新潟県は田中元総理のふるさとでございます。また、国際保護鳥のトキを陝西省から送っていただきまして、現在、170羽ほど飼育をしていますが、今年にはトキの、自然界での2世の誕生が期待されているところです。日々、このトキ色の羽を見ながら、日中友好を深く実感している県民、これが新潟県でございます。

そしてまた一昨年、中国総領事館を新潟市に設置していただきました。ビジネス面での交流も大変やりやすくなりました。日本海側の交流も促進していく上でも、今回のこのフォーラムに大変期待しているところでございます。また、新潟県は雪国でございます。冬の間、大変多くの雪が降るということで、素敵なスキー場、リゾート、温泉といったものが豊富でございます。

新潟の位置というのは、中国東北地方と大変近い関係にあり、東京に行くときに山脈を一つ越えるということになります。新幹線で東京から新潟に来ていただくと、冬の間は晴れの青空から突然、真っ白の雪国になります。川端康成さんがノーベル賞をもらいました『雪国』という小説の舞台になっていまして、「トンネルを抜けるとそこは雪国だった」という、この舞台が新潟です。

また、多くの中国の友人の皆さまとは、新潟からの留学生を受け入れてもらうとともに、さまざまな形で中国側から新潟に訪問してきていただいています。医学部にもう二十数年続けてなのですが、1人ないし2人ずつ留学していただいておりますし、農業研修生の受け入れも実施しているところです。今年4月からは、ハルビンとの間の航空路に加えて、上海との航空路も4便化ができたということで、新潟の企業も大変中国のビジネス界の皆さまと親しく交流させていただいているということで、深く感謝いたしております。加えてスポーツ交流、教育文化交流もさらに拡大していく予定ですし、これまでの積み重ねを拡大していく取り組みを進めてまいります。

ビジネス拠点についてご説明いたします。今、日本は円高で大変苦しんでいます。新潟からも上海、北京、大連等に企業が進出しておりますが、中国の人件費も高騰してくるということで、なかなか製造拠点をこの大都市近郊に設けることが難しい環境になってきています。むしろ、中国地方都市に投資したいという企業が大変多くなっています。大企業については、すでに世界各国に展開しておりますので、その生産のバランスを企業の生産計画の中で変えればかなり調整できるのですが、中小企業の場合は、まさに企業の存続をかけてこの製造拠点を探したいというニーズが大変多くあります。

新潟県はお酒と雪とお米といったもので有名なのですが、金額的に言いますと、自動車部品、電子部品の中小企業で多くのGDPを稼ぎ出しております。こういった企業の製造拠点、また逆に首都圏にマーケットを求めるとい中国の商社さんが新潟に拠点を置いていただいているというようなこともありますので、Win-Winの関係でビジネス交流が促進できるのではないかとことを実感しているところです。このため、大連事務所のほかに、ハルビン、北京、さらに長春に今後、拠点を設ける予定にしています。今年中に実現するのではないかと考えています。

今、力を入れていますのは、今日、竺副省長がいらしていますが、この大陸と航路を設けるとい形で、当初は赤字であっても新潟県として全面的にサポートして、ビジネスベースにどうしても乗せたいと。東京から大連経由で内陸部に運ぶより、コスト的にも時間

的にもかなり有利になるルートがありますので、この海路を確実なものにしたいと。この貨物事業が十分ビジネス的にペイすれば、そのあとはぜひ貨客船を動かしたいと思っています。貨客船で人の往来と物の往来をセットで進めていくという施策をぜひ実現したいと思います。

この航路開設の折には、程大使にお越しをいただきましたことを深く感謝申し上げます。日中国交回復 40 周年、これは新潟県としては、県をあげて次世代につなげていきたい、教育文化交流、全力で尽くしてまいりたいと思います。新潟県も、何回も地震を受けました。中国の四川地震のあとに、訪問団に来ていただくことができました。私自身も知事会で災害対策特別委員長を拝命いたしておりますので、防災面での協力ということも中国の皆さんと、ぜひ強化してまいりたいと思います。

復興については、中国で、四川大地震で対向支援をやられたということが、日本でも大変注目されました。相互のノウハウを持ち合うことによって、より安全な未来志向の協力関係がつかれると期待しているところです。

この日中知事省長会議が今後さらに発展することを祈念いたしまして、私からのプレゼンテーションとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

## (6) 安徽省省長 李 斌

尊敬する山田会長、李会長、山口副大臣、程大使、日本の知事の皆さま、ご臨席の皆さま。中国安徽省省長の李斌でございます。この春らんまんの美しい季節に日本に参りまして、知事の友人の皆さま方と一堂に会し、中日の友好と発展について意見交換ができ、大変意義深いことと思ひ、大変うれしく思ひます。

安徽省は中国の東部にあります。安徽の徽は人文と山と水の組み合わせです。左はぎょうにんべんです。人口を意味しているのです。人口が多い省です。6800 万人います。右のつくりは文化があります。文化も非常に深いところです。真ん中のつくりは上が山、下が糸です。つまり山紫水明の場所です。ぜひこの文字を通して多少なりとも皆さまに印象を与えることができたらと思ひます。

安徽省は観光の資源も豊富で、山紫水明で優れた文化があります。世界で 3 番目に長い川である長江が省内を 400 キロ流れ、世界の自然遺産、文化遺産でもある黄山は不思議な形の松、岩、雲海、温泉で知られています。仏教の聖地であります九華山には、仏教の文化があります。また天柱山の自然風景も世界で名をはせています。ここで深い伝統の安徽

文化が誕生しました。

世界文化遺産にもなりました、明と清の時代の安徽スタイルの民家や村落がある一方、「文房四宝」と称される宣筆、宣紙、安徽の墨、歙州の硯、あるいは京劇の元祖といわれる安徽地方劇は安徽文化の象徴です。また、安徽省からは、4つの演劇団が北京に行って、皇帝の誕生日祝のために公演を行いました。そうした俳優たちが北京に居残って、その後京劇ができたといわれています。また、李白などの大文豪も安徽省を詠んだ有名な漢詩を残しています。

安徽省は重要な食料の生産基地でもあります。エネルギー、原材料の拠点、製造業の省です。石炭、鉄鋼、銅材、セメント、自動車、家電などの製品では重要な位置を占めています。近年、安徽省は科学技術と教育において非常に力があり、優位性を発揮しており、産業の構造調整を急ぎました。ハイテク産業がめざましい発展を遂げています。

現在、安徽省は全国の重要な液晶パネルの生産拠点になりました。フォトエレクトロニクスの製造拠点、新エネルギー自動車の製造拠点になります。また、安徽省にある中国科学技術大学は、音声の情報通信、量子情報通信の技術を開発しました。世界のトップレベルのものです。量子通信技術は21世紀の重要な技術といわれており、中国安徽省の合肥で完成しました。安徽省は世界で最初に量子情報通信の量産化を実現した地域です。安徽省は8年間続けて2けたの成長率を記録していて、中国で最も発展が早い省の一つです。

世界が安徽省に注目してくださるのは、おそらく安徽省には総合的な条件があるからだと思います。安徽省には自然資源があり、労働力の資源、科学教育の資源、どれをとりましても豊富です。エネルギーと水資源の保障能力も高く、非常に豊富で担保できます。また、航空、道路、鉄道、水運で構成される交通輸送システムも、非常に便利でスピーディーです。周辺の5億もの人口をカバーしています。大きな市場を持っています。こうしたすべてが安徽省の産業発展のよい優位性をもたらしていると思います。

とりわけ触れておくべきなのは、安徽省が中国の技術革新プロジェクトの実験地域であります。安徽省に投資すれば、税制、用地などの優遇政策を受けることができます。また、企業にとりましては雇用の面、人材採用、あるいは公共サービスの面で良い条件を享受でき、理想的なリターンを得ることができます。

産業協力は日中友好を促し、共栄を実現する重要な架け橋です。日本は安徽省の2番目の投資のリソースであり、現時点で安徽省における日本の投資プロジェクトは405件あります。いずれも大きな成功を収めています。例えば日立建機の年間生産額は、安徽省での

年間売上がグループ全体の 26%に上っています。安徽の日立建機グループの生産基地が、日立建機グループ最大の生産拠点になっています。われわれは産業協力の分野をより一層広げ、レベルを高め、より大きな規模でそれぞれの、双方の資源・技術の優位性、産業の互換性を実現させたいと考えています。とりわけ先進的な製造業、電子情報、ハイエンドなデバイス製造業において、さらに協力を推し進めたいと考えています。

日本との協力の中で、安徽省としましては、いろいろな地域間の交流を重視しています。高知県は、われわれの友好県です。人材、経済、さまざまな協力を行ってまいりました。双方の国民の感情も非常に良好です。明日、高知県を訪問させていただいて、新しい取り決め、協定を結ぶことにしています。毎年 10 万人の日本の方々が安徽省を訪れていて、また、安徽省からも多くの観光客が日本を訪問しています。

今月 20 日に合肥・大阪の直行便、空路が開設されました。このような安徽省と日本との友好を通じて、私たちは誠実友好、相互信頼、互惠、スピーディー・高効率、共栄発展を提唱してまいりました。知事省長フォーラムというプラットフォームを通じて、両国の協力が必ずや、より実り多い成果を生み、友情の花がさらにあでやかに咲き誇ると深く信じています。

また、あらためてご在席の知事の皆さま方、ゲストの皆さま、一度安徽省においでください。ありがとうございました。

## **(7) 長野県知事 阿部 守一**

それでは、私のほうから長野県について、皆さま方にぜひ、よく知っていただきたいということでお話を申し上げます。

まず、第 8 次中国省長訪日団の皆様、ようこそ日本にお越しくださいました。皆さまを心から歓迎申し上げます。私ども長野県は大変美しい地域でありますので、画像をぜひ見ながら話を聞いていただければということで、たくさん写真を用意してまいりました。よろしく願いいたします。

まず、私は昨年 11 月、長野県冬季観光プロモーションのために、北京市を訪問させていただきました。中国の経済発展の力強さを肌で感じますとともに、貴国とわが国との交流がもたらす無限の可能性について実感したところです。滞在中は貴国の中央政府の要人の皆さまとも会談させていただき、相互の交流促進について、大変有意義な意見交換をさせていただきました。

私ども長野県は、日本の真ん中に位置する、高い山に囲まれている地域でございます。日本の屋根とも称される場所です。有数の観光県として知られております。国内外から年間 8000 万人。中国からは 3 万人以上の観光客の皆さま方に、長野県を訪れていただいております。全国でもトップクラスの温泉地を擁します。また、観光資源も大変豊富で、今ちょうど、春は桜をはじめとして、花々が咲き乱れる環境でございます。私ども長野県は、東京駅から新幹線に乗っていただきますと、国際的な高原リゾートであります軽井沢までわずか 60 分という、東京からも大変近い場所に位置しています。

北アルプス、南アルプスと、3000 メートル級の雄大な山岳景観が広がる地域です。また、パウダースノーのスキー場、温泉、本当に四季折々、さまざまな楽しみがある地域でございます。日本アルプスでございます。そしてスノーモンキー。これは世界的に有名になっておりますが、地獄谷温泉。地球上で唯一、野生のサルが天然の温泉に入る場所でございます。多くの外国人旅行者が訪れる、大変有名な観光スポットです。また、私ども長野県は、1998 年冬季オリンピックを開催いたしました。中国のスキー競技、あるいはスキー産業の発展のご協力、お手伝いをこれまでもさせていただいておりますし、また中国からナショナルチームの訓練隊の皆さま方にもお越しいただいております。

また、長野県は、年齢調整死亡率が男女とも全国で一番低く、世界の中でも屈指の健康長寿の地域ということで知られています。さらに、長野県は世界トップクラスの技術を有する企業が大変数多くございます。ハイテク産業のメッカとしても知られております。

1983 年に私どもは河北省と友好提携協定を締結させていただきました。それ以来、文化、経済など、さまざまな分野で積極的に国際交流活動を行っています。また長野県内 10 の市町村が貴国の 10 の市、あるいは県と友好提携を結び、交流を深めています。

こうした中、私ども長野県は昨年 10 月、世界一の青少年交流農村づくりを目指して、今日はお手元にパンフレットをお配りさせていただいておりますが、「国際青少年交流農村宣言」という宣言を発表いたしました。国内外から青少年を積極的に受け入れ、私ども長野県の美しく豊かな農村を舞台に、共に交流し、ふれあいの大切さ、食の大切さ、自然の大切さを学び合ってまいります。

このため、国内外からの教育旅行、農村体験の受け入れを積極的に推進しています。一昨年、貴国からは 3000 人もの学生の皆さんに長野県をご訪問いただきました。私たちの、普通のご家庭に滞在いただくなどして、日本文化を体験し、あるいは学校同士の交流ということも行っています。さらに、多くの中国の学生に長野県を訪問していただきますよう



お願い申し上げます。熱烈歓迎を申し上げます。

また、未来を担う両国の青少年がお互いの国の文化に触れ、相互理解を深めることは、青少年自身の貴重な財産になるとともに、日中両国の発展の礎になると考えています。日中国交正常化 40 周年を記念して、中国国務院が進めます、中国大学生のインターンシップ。私ども長野県は積極的に市町村とも、民間企業とも協力して受け入れてまいります。現在、約 50 名の学生の受け入れを予定しています。

特に、経済発展が著しい貴国との互惠的、かつ、継続的な経済交流の推進は、長野県の経済の活性化にとって、大変重要であると考えています。1995 年に、経済をけん引する華東地域の中心である上海市に駐在員を配置し、県内企業の支援、そして訪日される中国のお客さまの拠点として活動しております。また、長野県国際戦略を策定して、より踏みこんだ、貴国との官民一体での経済交流を進めてまいりたいと考えています。どうかご協力をよろしくお願いいたします。

また、長野県は農業県でもございます。冷涼な気候、標高差から、高原リゾートでございます。果物、高原野菜、花、ワイン用ブドウなど、日本の一大産地となっております。特に県独自の、長野県原産地呼称管理制度という制度を持っております。長野県で生産・製造されたものを、自信と責任を持って消費者に提供し、長野県産農産物ブランド化を目指しています。リンゴ、ワイン用ブドウは日本一の品質を誇っており、長野県産ワイン用ブドウで醸造したワインは、国内外のさまざまな賞を受賞しています。

本日、このあと晩さん会がございますが、晩さん会用に原産地呼称管理制度認定のワインをお持ちしています。今回のワインは、2011 年国産ワインコンクール欧州品質部門で受賞したメルローでございます。ぜひお楽しみいただきたいと思っております。信州自慢の逸品を貴国の多くの皆さまにお届けするため、百貨店において長野フェアを開催するなど、さらにアピールしてまいります。

結びに、日中国交正常化 40 周年を機に、両国間、地方政府間、民間レベル、さらには青少年、子どもたちの交流など、多彩な交流活動が両国間で展開され、心と心が通い合う関係がさらに深まることを期待し、そのためのご支援・ご協力をお願いいたしますとともに、貴国とそれぞれの省の発展、さらには皆さま方のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます。私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

## (8) 吉林省常務副省長 竺 延風

ご在席の皆さま、こんにちは。2 つ、合と和ということでお話をしたいと思います。3 つのことをお話ししたいと思います。吉林省の内容です。吉林省は日本にもっとも近い省の一つで、2700 万人、18 万 7400 平方キロメートルという面積があります。しかし、地域内の格差がかなりはっきりしており、東部はかなり山がちです。中部は食料の主産地となっております。西部は湿地草原になっています。こういった地形により、吉林省はとても自然資源に恵まれた省となっています。

吉林省の中部は、中国の主要な食糧生産基地となっています。去年は 600 億斤を超える生産量を誇っておりまして、農業、林業、牧畜業も、そういった資源に恵まれています。林業も吉林省の大変特色のあるものです。この漢方薬のニンジンですが、皆さんよくご存じだと思います。人々の需要を伸ばしたり、健康に良かったりといった、大変多くの機能を持っているといわれております。それからこちらも特別な商品なのですが、こういった林業も大変特色がある省です。そして、石油、天然ガスや鉱物、レアアース、レアメタルといったものなどもありまして、フランスの病院でもかなりの評価を得ております。

同時に、吉林省はまた、中国の主な生産基地ともなっています。皆さんご存じのとおり、自動車、鉄道、もっとも古い化学工業、食料品加工などが、吉林省の主な産業となっています。漢方薬もあります。現在、バイオ生物は第 1 位、第 3 位となっております。ちょっと確認していないのですが、私たちの省にはこういった優位性があります。

それから長白山という山がありますが、観光資源として大変有名で、吉林省の人たちはよく知っています。このように、現地の多くの社会から関心を持たれている観光資源があります。すでに 1 兆元の GDP があります。人口が少なかったのですが、1 人あたりの GDP はかなり上のほうに行っています。物価総水準や失業率もかなり抑えられています。医療保障や社会保障システムも、かなり整備が進められている省ということができると思います。

今後 5 年間ですが、4 倍ぐらいにしたいと思っています。しかし、二酸化炭素の排出や省エネは進めていきたいと思っています。汚染は抑えていきたいと思っています。エコ省として、環境に優しい省としての発展を目指しております。

2 つ目に、吉林省は日本との交流がとても密接であるということです。日本は吉林省の第 2 の貿易パートナーとなっております。去年の段階で 30 億ドルを超えています。現在、輸出の 14% が日本との輸出入で占められています。日系企業もかなりありまして、261 社

です。そのうち農産物食品加工や、自動車部品、木材加工などがありますけれども、10年前に日中韓で最大ともいえる一汽とトヨタの協力が締結されています。これによって、一連の関連の産業チェーンが出来上がっています。大変重要な経済の協力分野となっています。

今年、さらに一連のプロジェクトが完成する予定になっています。また、科学や技術教育面でも、医療技術や汚水処理・回収などでも協力が行われていますし、また、日中のハイテク協力実験室もあります。それから長春は、日本でかなり、外交面でも学術面でも、語学が堪能な方はかなり長春の出の方が多いのです。長春はこういった学校、教育機関があり、実は多くの学校が日本の学校との間で提携関係を結んでいます。3000人の留学生が吉林で留学・研修などを行っています。各地域の文化も、北京と、こういった日本と中国との文化交流も盛んに行われております。

そういった科学協力など以外にも、中国と東北地方の政府首脳会議、あるいは経済協力会議、環日本海拠点都市会議といった首脳会議などが、吉林省で開催されています。それから、協力に関する提案なのですが、現在吉林省は、中国の東北の工業地点は、第12次5カ年計画の中でも大変重要な基地となっております。吉林省は現在、重要な発展の時期を迎えています。まず、車の面ですけれども、協力のプラットフォームを構築したい。それから一連のガラスや車などを含めた協力を行っていきたいということです。

科学技術に関しては、バイオテクノロジーや新素材などがあります。吉林省は全国の炭素素材の、かなりの基地が構築されています。市場の中でもかなり使われています。同時に電子部品など進んだ装備、スマートシステムや環境設備などもかなり生産されています。

それからサービス業ですけれども、先ほど新潟県の泉田知事もおっしゃっていましたが、ザルビノとの間での、460海里的の海路を結ぼうとしています。鉄道ではロシアとの間で合意に達しておりまして、株式の話も出ています。今までなかなか不便だったものが、お互いに推進できるようなプラットフォームが構築されつつあります。それからアニメの産業も開発してきたと思っております。そのため、アニメの人材育成を吉林省でやっていきたいと思っています。人材もかなり豊富にいます。

日本語ができる人が大変多いので、アウトソーシングもかなりできています。長春などでのソフトウェアのアウトソーシングの開発などもかなりあります。また、農業での開発もできます。吉林省は農業大省ですので、さまざまないい種の育成や、近代的な農業の試験区なども行っております。シンガポールとの間でもその試験区があります。1000平米な

どを使って、有機栽培などが行われています。吉林省との間では、こういった協力がかなりうまくできる、先天的な条件がそろっていると思います。エコ農業、省エネ、環境に優しい農業を進めていくのにも、大変資する場所でもあります。

また、都市化がかなり進んでいます。これは日本の都市化の経験を学びたいと思っていますし、また、私たちの人口も 2700 万人の 300 万人以上が高齢者となっています。よって、高齢者の問題も私たちの重点となってきます。その点においても協力できればと思っています。

中国の工芸品で、この 2 人の僧がとても愉快地協力しているというのがあります。私たちは工芸品だけではなく、本当に協力していきたいと思っています。みんな日本の桜や富士山は知っていますけれども、私たちにも花や長白山があります。中国にもたくさんものがあるが、中国の人たちにはよく知られていますけれども、なかなか開発されていないというのがあります。この過程の中で、この工芸品の合というのを、実際の面でも生かしていきたいと思っています。

協力と仲良くするということによって、さらに協力を進めていきたいと思っています。ありがとうございました。

## **(9) 高知県知事 尾崎 正直**

中国省長代表団の代表の皆さま方、このたびはようこそ日本においでいただきました。心から歓迎申し上げたいと思います。また、友好提携協定を結ばせていただいております安徽省からは李省長に、おいでいただきましてありがとうございます。明日は高知県までおいでいただくということでございまして、心から歓迎申し上げたいと思います。

先ほど来お話が出ておりますが、日中の戦略的互惠関係を進展させていくために、地方政府同士で、しかも文化・経済面での交流を活発に進めていくということが、非常に重要なことだと思っております。また、人口減少が進みつつある日本にとって、外に出て行く、対外的な交流を活発化させていくということは非常に重要なポイントだと考えているところです。そういうことから高知県としましては、さまざまな面において、中国に対していろいろな窓口となるような拠点を設けるように努力してまいりました。

こちらは高知県の上海事務所でございます。こちらは 2003 年 9 月に設立させていただいたものですが、高知県の皆さま方が海外に事業展開していこうとするときのサポートを行います。例えば市場調査を行ったり、情報提供するための拠点として使ってもらったりし

ます。さらには、現地の商談を支援するというようなことを行うために、上海に高知県として設けている事務所です。今年の4月からは、県内の企業さんたちが上海に出て行って、中国の各地域の皆さんとビジネスを行おうとするときのサポートデスクを設置しました。

レンタルデスク、さらにはさまざまな形での関連機材を無料で貸し出すという取り組みです。ここがいわば、高知県の全中国に対する共通の窓口ということになっています。近年の主な取り組みとして行ったことを、主に3つ書かせていただいております。われわれの地元の銀行の皆さんと共同させていただいて、日中ものづくり商談会を出展させていただきます。こういう中で、さまざまな企業との間で成約を成し遂げるという取り組みを進めてまいりました。

さらには対中投資の後押しをしております。中国に対して県内のメーカーの皆さんの海外工場進出をサポートする取り組みを行っております。そして近年として非常に珍しい例だと思いますが、中国の企業が日本に投資していただく後押しもさせていただいております。対日投資、高知のテクノパークに中国の企業が先日進出していただいたところで、中国から日本への企業進出を後押しする取り組みも進めさせていただいているところです。こういう形で、中国各地の皆さま方と経済的な交流を進めていくため、こういう拠点を設けての取り組みを今後も進めてまいりたいと考えています。

続きまして、各地の皆さまといろいろな交流をさせていただいているわけですが、中でも特に友好提携協定を結ばせていただいております安徽省の皆さま方とは深い関係を築かせていただいております。高知県と安徽省との関係にとどまらず、例えば高知市と蕪湖市との提携協定です。市と市レベルにおける協定も結ばせていただいております。私はこの友好提携15周年を記念します2009年、安徽省を訪問させていただいて、李省長の前任でいらっしゃる王省長とお話させていただいたところでした。

そのときに、文化面での交流にとどまらず、経済面、貿易促進という形で、今後これを進めていくような協力関係を進めてまいりましょうというお話をさせていただきました。明日、李省長に高知へおいでいただきまして、さまざまな産業分野での友好協定を結ばせていただきます。さらには教育面、スポーツ面での交流についての協定も結ばせていただくということでございまして、具体的な協力の実が上がってきていることについて、本当に心強く思わせていただいているところです。

中でも一つエポックメイキングとなりますのが、観光面での交流です。特に、お互い共通の観光資源を持っている者同士としての交流を促進しようとするところであります。あそ

ここに書かせていただきましたが、高知県にも世界ジオパークがございます。昨年9月に認定を受けました、室戸ジオパークがございます。安徽省にも天柱山のジオパークがあります。お互い、このジオパーク同士でだんだんと友好のネットワークを広げていければと考えています。アジア全域でこういうネットワークを広げられればと考えていますが、まずその第一歩として、安徽省、天柱山との間でこのネットワークを結ばせていただきたいと考えているところです。こういう交流を通じて、お互いがお互いを訪問していく、お互いの訪問を少なくとも2倍にしていくぞという意気込みで取り組みを進めたいと考えています。

続きまして高知県のご紹介ということになりますが、先ほど申し上げました室戸ジオパークは、プレートテクトニクスの動きによって地形が隆起して出来上がった、世界的にも珍しい地形が高知県にあるわけですが、こういう室戸ジオパークの取り組みというものがあるのに加え、さらに日本でも一番水質がきれいだと言われた仁淀川という奇跡の清流もございます。また、日本の中で一番有名な歴史上の人物、坂本龍馬の生まれた地としても有名な土地です。そのほか、四万十川や足摺岬など、さまざまな名勝のあるところです。

日本の中でももっとも昔からの自然が残った地と言えるところではないかと考えているところですが、中国の皆さま方とますますの交流・発展を通じて、お互いの良さを認め合って、良い関係を築いていければと考えています。

今回は訪日いただきましてありがとうございました。これからどうぞ仲良くさせていただきますよう、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

#### (10) 広西チワン族自治区副主席 林 念修

尊敬する山田会長、尊敬する山口副大臣、日本側の各知事・副知事の皆さま、李小林会長、程永華大使、皆さま、こんにちは。私は広西チワン族自治区副主席をしています、林です。本日は非常に桜が美しく咲き乱れた時期に東京に来ることができ、第1回の日中知事省長フォーラムに参加できたことを光榮に思います。これは非常に得がたい交流、そして学習し合うプラットフォームになっていると思います。中国広西チワン族自治区政府および5100万人の広西の人民を代表し、このフォーラムの開催をお祝い申し上げます。

この知事省長フォーラムが日中両国の実質的な協力のために、おおいに効果を発揮すると信じています。今日は、このフォーラムに参加されています中国側の、少数民族地区5つのうち3つが来ました。少数民族地区の5分の3が来たわけです。それは、われわれ少

少数民族の自治区が、日本との友好交流の強化に非常に興味を持ち、期待をしているということの意味しています。

ですから、この機会を利用してこの広西チワン族自治区の状況を皆さまにお伝えしたいと思っています。私どもは1つの少数民族自治区の1つで、南に位置しています。人口は5199万人、中国で10番目に人口が多いところです。少数民族では第1位です。広西の面積は23万6700平方キロメートルです。これも中国では9番目になります。去年のこの地域の生産高は、1兆2000万近くになりました。そしてこれは少数民族の中では第2位に位置する規模です。

広西チワン族自治区は、非常に優位な土地にあります。非常に国境に近く、また黄河などに近いのです。広西はベトナムと国境線を接しています。1020キロにわたる国境線を持っています。そして広西は、中国からASEANに通じる、もっとも便利で国際的な大通路です。また、ASEANに対して、中国が解放協力をしていく窓口でもあります。広西は中国の西部地域において、唯一海に面した省です。また、中国に11ある海に面した省などの中でも、一番西に位置しています。ですから、この2つの特徴は広西の有利な点になっています。西部大開発という国の施策を享受することができ、東部沿岸地域の開放施策も享受できるという、2つの優位性を持っています。

また、広西は生態環境の優位性も非常に突出したところですし、とても自然に恵まれています。森林のカバー率は60.5%に達しています。これも中国では4位に位置します。また、広西は豊かな鉱山物の資源がごぞいます。それから水のエネルギー、林業、海洋、観光などの資源にも恵まれています。ですから広西は、持続可能な発展のポテンシャルが非常に大きなところです。2008年、中国政府は広西省の北部湾発展地域という形での施策を定めました。そして2010年の1月、中国とASEANの自由貿易区が正式に立ち上がりました。この自由貿易区により、広西はさらに発展する力を得ることができました。

そして去年、広西のある都市を開放都市としまして、開放都市の発展に力を入れ始めました。ですから、今、広西は非常に発展のチャンスに恵まれ、発展のパワーがみなぎっている、いい時期にあります。中国の西部大開発という国策のもと、今、新しい発展の段階に入っています。日本との交流も非常に歴史があり、とても深い友情を長く続けてまいりました。

日本の熊本県は、広西にとって初めての自治区級国際友好都市です。双方は1982年に友好関係を締結しましたが、それ以来、科学技術、教育、文化、また人文、科学など、いろ

いろなところで交流してまいりましたし、相互訪問もしました。民間の相互訪問もますます盛んになっています。経済貿易における日本との交流は、ここ数年、ますます拡大しています。去年、日本との輸出入額が前年より 34%増加し、そのうち日本から輸入した量も前年度比で 50.7%増加しました。また、日本は広西の 6 大貿易パートナーの 1 つに入っています。また、いわゆる輸入元としては、日本は 6 番目に位置する状況です。ですから、広西と日本の交流・協力関係は非常に素晴らしい、勢いを持っていると言えます。

今年は中日の国交正常化 40 周年であり、中日の国民交流友好年です。われわれ地方政府の役割を十分に発揮し、中日両国が各分野で行う、実務的な交流協力に参加していき、われわれなりの寄与をしていきたいと考えています。そのために、いくつか提案申し上げます。

最初に、広西と熊本の友好都市 30 周年を記念し、友好交流活動を展開していくことです。それによって協力をより拡大し、分野を開拓し、内容を豊かにしていくことを考えています。また、レベルもアップしていきたいと考えています。今日の昼食会で、熊本の副知事さまとも、このことについて意見交換させていただきました。

2 点目ですが、中国 ASEAN 博覧会をプラットフォームとして、日本との経済貿易の取引量をさらに拡大していきたいと考えています。今年 9 月には広西の南寧市において、大 9 回中国－ASEAN 博覧会とビジネス・投資サミットを開催しますので、ぜひおいでください。中国において、ASEAN との解放協力のビジネスチャンスを分かち合ってください。

3 番目には双方の互換的な優位性を基礎とし、車のパーツや省エネ環境保護、観光など、いろいろな分野において、実質的な協力をしていきたいと希望しています。

4 点目には、北部湾の開発という計画をもとに、地域間の協力関係を強化したいと思っています。そして、北部湾発展計画の利益を共に享受したいと思います。中国と、そのための立ち上げの式典が行われています。日本の皆さまにも、この沿岸地域の都市に来ていただければと思います。

5 点目ですが、われわれはこの知事省長フォーラムの開催が続いていくことに賛成いたします。年 1 回、双方が順ぐりに担当していく形でやっていきたいと思っています。来年のフォーラムを、ぜひ広西でできればと希望しています。

今日は、皆さまが来年、実際に広西に来て、直に見ていただきたいという気持ちがありましたので、特に PPT を用意しませんでした。ありがとうございました。



## (11) 佐賀県知事 古川 康

張毅訪日団団長をはじめとする訪日団の皆さま、程永華大使をはじめとする大使館関係者の皆さま、私は佐賀県知事の古川康でございます。日中双方のプレゼンテーションの最後を飾らせていただくことを大変うれしく思います。さて、今お配りしております横に長い資料を1枚めくっていただいて、佐賀県がどこにあるのかを見ていただければと思います。私たち佐賀県は九州の中にあります。今、上海までの航空機が就航していますけれども、約2時間で行けます。実は佐賀県は今から2222年前、徐福が日本に訪れたときに上陸した場所だと言われています。私は見たわけではありませんけれども、多くの人が言っています。きっとそうだろうと思っています。

この2222年前、多くの困難を乗り越えて、徐福は不老長寿の薬を求めて佐賀県にやってきました。そのころよりはるかに便利になった今、私たちは海を越え、いろいろな障害を乗り越えて友好を深めていかなければならないと強く感じています。そういう意味で、このフォーラムは大変、大きな意味があると思っています。その佐賀県は今、中国との間の関係を急速に深めています。

次のページをご覧ください。私ども佐賀県は、昨年、程永華大使にわざわざご夫妻でお越しいただきました。短い時間ではございましたが、佐賀県内を見ていただき、またご講演をしていただきました。それが契機となり、佐賀県の経済界、議会といったものの中で、佐賀県としても中国に拠点をつくるべきだという動きが強まり、10月には瀋陽に、そして香港に代表事務所を設立しました。特に遼寧省の瀋陽は遼寧省の省都でありながら、これまで自治体の代表事務所が一つもなかったところでもございました。私どもが自治体で最初の事務所として瀋陽に拠点を構えることになりました。

また、現在、飛行機が通っております佐賀と上海の間、その上海には事務所は作っておりませんが、県庁の中に上海担当デスクというものを設けまして、この人間が今日も上海に行っておりますけれども、だいたい月間10日から20日ぐらいの間、上海に滞在し、いろいろなお手伝いをしています。今日、私どもの上海担当の代表は、上海に行って、有田焼の売り込みのお手伝いをしているところです。

次のページです。佐賀県の特に代表的な産物は農産物です。その中で、一番左にある佐賀牛が代表的な輸出の農産物です。残念なことに、現時点では中国本土向けには輸出できない状況ですが、香港には多く輸出されていて、香港における和牛の中では佐賀牛がもっとも値段が高く、かつ量も多いブランドとなっています。本日の晩さん会では、この佐賀

牛を皆さま方に召し上がっていただく予定になっています。ぜひ楽しみにしていただければと思います。

次のページに、香港のそごうの、実際の地下の食品売りの写真をお見せしております。こうした形で香港の皆さま方には佐賀牛を味わっていただいています。近い将来、ぜひとも中国本土の方にもこうしたもののおいしさを味わっていただければと思っています。

そして次のページ。先ほどから申し上げておりますように、佐賀と上海の間、春秋航空という格安航空会社の便が就航しました。一番安い航空運賃で、日本円で 3000 円でございます。これに燃料サーチャージは加わりますが、それでも実質 7000 円前後で佐賀と上海の間が結ばれることになりました。3 月ひと月の搭乗率は 95% を記録しています。そして今年の春には、たくさんの中国の方々が佐賀県内の桜の名所を訪れてくださいました。

佐賀県が作っていることを最後に一つご紹介申し上げます。最後のページにあります、九州国際重粒子線がん治療センターについてです。かつて、徐福が探した不老長寿の薬に代わる技術として、世界最先端のがん治療のセンターを今、佐賀県内に作っています。来年の今ごろにはオープンします。重粒子線という放射線を使って行う治療は痛くありませんし、また切らずに手術ができます。そして温泉に入りながら、ゴルフをしながら、観光を楽しみながらでもがんを治すことができるという特徴を持っています。がんの治療センターですから、ぜひお越しくださいということは申し上げにくいわけですが、皆さんのご友人・お知り合いに、がんになられた方がいらっしゃったら、痛くなく、切らずにがんを治そうと思ったら、日本の佐賀県に行ってごらんとおすすめいただければ大変ありがたいと思っています。

最後に、もう一度 1 枚目の地図に戻ってみてください。先ほどもお話がございましたが、今回お越しいただいている中国の方々は、その多くの方々が中国の内陸部からお越しいただいています。これまで日中の交流は首都と首都といったものが中心でした。でもこれからの中国と日本の交流は、こうした内陸部と、日本の中でも地方と呼ばれるところの交流が重視されていくと思います。お互いにさまざまな、バラエティーに富んだ国土を持っています。

こうした、日本の地方と中国の内陸部との交流関係が深まることによって、私たちはこの日中関係をより強固なものにすることができると思います。私たち佐賀県では、すでに桜は散っていますが、日本の最南端の沖縄は 1 月に桜が咲きます。そしておそらく長野県や新潟県では今、桜が咲いているかもしれません。そして最北部の北海道では 5 月に桜が

咲きます。桜一つとってみても、1月から5月まで咲き続ける、これだけの多様性を持ったわが国をより深く、より広く中国の皆さまに知っていただきたいと思いますし、私どもの国以上に多様性を持った中国を、私どももしっかりと理解していく努力をこれからも続けていきたいと思っています。

佐賀県知事の古川康でございました。ありがとうございました。

#### 4. 意見交換

##### 山田啓二 全国知事会会長

それでは、地元ということで、まず日本側から行わせていただきたいと思っております。今回のテーマであります「地方政府間交流の促進と日中関係の発展」につきまして、前半のプレゼンテーションを踏まえ、意見交換をしてみたいと考えております。

大変時間も限られております。今日は皆さんとあふれる思いを語っていただき、少々時間が押してまいりましたので、お一人3分程度でお話をお願いしたいと思います。そして、議論を深めるためにも、できる限り先ほどのプレゼンテーションの内容にも沿った形でお話をいただければありがたいと思います。

それでは、まず、日本側の方でご発言いただける方、お願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

では、まず上田埼玉県知事さんからお願いいたします。

##### 上田清司 埼玉県知事

まず何よりも、李小林会長からこうしたフォーラムの提案があって、それぞれ、各省を代表する皆さまと意見交換ができたことに、改めてお礼を申し上げたいと思います。

日中の国交が正常化して40年の間、両国の交流はずっと拡大基調ではあったものの、しばしば何かの障害がなかったわけではありません。しかし、やはり私たちが大事にしなければいけないのは、中国という、世界を代表する大きな国との関係だと思えます。人口も経済も、これから、多分に2030年ぐらいには米国以上の経済力になるかもしれない。こういう予測もある中で、まさにその隣国であります日本、かつてはGDP2位、あるいは一人あたりのGDPも実質的に世界1位であったときもありますが、私たちはまた、同時に、高度成長をした経緯もございます。そして、コンパクトなエリアの中で高度成長した故に、公害、つまり工業が発展する段階でのマイナスの部分がたくさん経験しました。故に、最も世界で省エネ、あるいはまた環境問題への取組に熱心な国になったことも事実であります。

環境という部分では、現在の中国がまさに、かつての日本と同じような課題に直面しているのではないかと思います。友好関係を結んでいる山西省との交流の中で、私もしばしば見ておりますけれども、太原の空港の空を見ると、白い雲のほずが黄色い雲、そして青い空のほずなのに曇った感じでしばしば見られる。そして、そのことを山西省の方に伺う

と、比較的一年中そうだと、大雨や大きな風でも吹かない限り青い空が見えないというような話であります。

かつて、一部、日本の都市にもそういうことがありましたが、今はそうしたものは皆無に近い状態になっています。こういう部分での日本の貢献がかなりできるのではないかと思っております。

一方、中国の大きな経済規模は、私たちにとっても魅力的な市場であります。そういう意味でも、地方政府間の交流は重要です。多くの中国の皆さんとの経済交流を円滑なものにするために、さまざまな商慣習の違いとかそうしたものを両国間で調整をしたりする必要があります。地方政府間の交流があれば、場合によっては省を通じてそうしたお願いをしたり、また、日本にもそうした慣例もあるわけですから、そうした部分を、省と都道府県との交流を通じて連絡をしながら国に変更を迫っていくことなども考えられます。

幸い、我が国では現在の政権の中で、国と地方の協議の場というのが法律できちっと制度化されましたので、さまざまな制度について、地方と国が正式に話し合っ決めていく場もあります。そういうものを活用して、日中のお互いの経済交流あるいは観光交流、あるいはさまざまな交流について、障害物をできるだけ除いて、小さな紛争を除いて、大きな目的、つまり、やはり地球というのはそれぞれの国で所有するものではなくて、全体で所有するものであるが故に、私たちは常に協力し合いながら、世界の平和と、そしてまた大きな福祉のために、前進していくべきだと考えます。

これからもこうしたフォーラムを通じて、国と国は多少ぎくしゃくしても、私たちは小さな障害を極力除きながら大きな枠組みを作っていきたいと、改めて申し上げたいと思います。

ありがとうございました。

#### **李小林 中国人民对外友好協会会長**

上田清司知事から一つの問題に言及されました。中国の経済成長のスピードが非常に速い。経済の大国、そして GDP の規模が第 2 位に成長したということに言及されました。

それでは、寧夏自治区の張毅書記から、中国の現状について紹介してもらって、そして日本との協力についても発言していただきたく思います。

## 張毅寧夏回族自治区書記

6人の知事のプレゼンテーションを拝聴しました。上田知事から素晴らしいご質問をいただいたと思います。

中国は、今も発展途上国であります。経済の発展の総量から見て、確かに世界第2位になったということではありますが、しかし、一人当たりの水準で見ますと、われわれの水準は、まだ低いものであります。13億もの人口を抱える中国は、そのうち、いわゆる貧困人口の比率、その数量がまだ1億もいます。ですから、バランスの取れていない、著しくバランスを欠いた状態がまだあります。世界経済における経済水準の位置づけで言えば、まだ、発展の途上にある国と言わなければなりません。

発展を求めるといえるのは、相変わらず中国の大きな課題であり続けます。ただし、今後は科学的、合理的なやり方で発展を遂げなければなりません。中国政府指導部も科学的な発展観という理念を打ち出しています。それに従うためには、人と人の関係を適切に処理する、調和の取れた人間関係を目指すべきであります。

今までの発展の中で、いろんな問題もありました。全体的に国民の生活水準は上がりました。しかし、問題点も出てまいりました。所得の分配、配分が必ずしも公平ではありません。これが一つ。それから、確かに、おっしゃいましたように、環境の保護は大きな問題であります。今後はクリーンな成長を目指すべきだと考えます。循環型の経済を目指す、二酸化炭素の排出の削減を心掛けなければなりません。科学的な発展観は、人と人の協調の取れたあり方と同時に、人と環境との協調の取れた関係を指しますので、ですから、成長を保つ一方で、やはり環境への配慮が必要です。自然への配慮が必要です。

わが寧夏回族自治区は、非常に豊かな自然の省です。ただし、600万人のうち、100万人がまだ貧困の水準にあります。また、特に35万人の住民が、生活しにくい、生活に適さない場所に暮らしています。解決しなければならないと思います。こうした貧困問題の解消には経済の発展が避けて通れません。ただし、やはり科学的な発展観の徹底が何よりも重要であります。中国の今年の経済発展の基調は、平穏な中でやや速い経済成長を遂げるということでもあります。

次に、対日協力ですけれども、日本と中国は非常に高い互換性があると思います。日本はハイテク、ハイエンドの技術があります。先進的な管理がございます。中国には広い大きな市場、比較的コストの安い労働力、比較的豊かな資源があります。ですから、双方が協力をすれば、必ずや両国の発展に資すると同時に、両国の国民によい生活、よいメ

リットを与えたいと思います。

寧夏と島根県は友好県省です。93年にそのような関係が結ばれました。来年には20周年を迎えます。今年は19年目であります。島根県と寧夏の協力というのは本当に楽しいもので、素晴らしいものであります。われわれ寧夏のために人材を育成してくださいましたし、環境の保護にも尽力してくださいました。また、教育面にも、島根県から多大な支援を寄せられました。今後も、そうした分野においてさらに協力を推し進めたいと思います。今夜、島根県の小林副知事と懇談を予定しています。意見交換を非常に楽しみにしています。友情を語り合い、そして協力を深めていきたいと思っています。

### 山田啓二 全国知事会会長

ありがとうございました。ただ今、張毅書記から、今の中国、発展を求めながら調和を目指すという今のポジションを説明していただく中で、特に、日本と中国の間には互換性がある、協力し合うことによってお互いが発展できるんだという、大変素晴らしい指摘があったところであります。

こうしたご指摘に対しまして、新潟県の泉田知事の方から今度はお願いたします。

### 泉田裕彦 新潟県知事

今日は3自治区、そして2省のそれぞれ代表の方から現状をお聞きをして、スライドを拝見して、大変素晴らしい中国の風景を実感させていただきました。私自身、1年間に何回かは中国にお邪魔をしておりますけれども、改めて、大都市でない中国の魅力に触れる機会、これは大切だなという思いを強く持ちました。

例えば、お話にあったシルクロードですけれども、NHKの放送があったということもあって、多くの日本人がやはりシルクロードにあこがれを持っています。シルクロードの終点はまさに山田会長のすぐお隣、奈良ということになると思いますので、この友好の道、そしてまた経済の道というものを体感できるような仕組みを、知事会議を通じて、ぜひ具体化をできないかなと強く感じています。

わが県では、特に高校生を対象にしているんですけれども、学校間をまたがっても、研修旅行という形で、海外に行ってもらうための取り組みを進めています。目的地として、都市部もいいんですけれども、それと同時に、やはり多様な中国、こういったものを見る機会ができると大変うれしいと思っています。このフォーラムでお話し合いが終わりにな

るということではなく、これはできれば事務局をどこかに置いていただいて、実務的な詰めができると大変ありがたいと考えています。

一方で、新潟県にも見ていただきたいものがあります。例えば、高齢化が進んでいます。今後、中国も高齢化が進むと思いますが、パワードスーツ、介護現場で腰を痛める人が多いということで、介護をするときに人の動きをサポートするロボットの実用化の実証実験を今年から始めています。こういった介護産業、サービス産業、これは相互のマーケット拡大にもメリットがあるのではないかと考えています。

それから、エネルギーで言いますと、日本初のバイナリー地熱発電というのを新潟県でやっています。地熱発電自身は 100 度を超えないと発電機でタービンが回らないんですけども、温泉の温度、100 度以下であっても、間にアンモニアを通して、熱を移行して発電をするという技術が、既にスタートしていますので、こういったものを見ていただく機会があるといいのではないかと。

それから、世界最大の原子力発電所が新潟県にあります。原子力発電所の安全、それから地元住民とのコミュニケーションをどう図るかというような対話というものもあってもいいのかなと感じています。

実はお話する時間が短かったので、時間制限をされておりまして十分な話ができなかったものですから、これは来年はぜひ中国、できれば今日参加をした 5 自治体のどこかで 2 回目ができると大変うれしいなということで提案させていただきますので、山田会長と李小林会長との間でぜひ具体化をしていただけるとありがたいと思います。

#### **李小林 中国人民对外友好協会会長**

ありがとうございます。先ほど、一つ素晴らしいご意見でした。

では、こちらはヌル・ベクリさんから。新潟へ行ったことはありますか。

#### **ヌル・ベクリ 新疆ウイグル自治区主席**

いえ、ないですね。とても行きたいです。

#### **李小林 中国人民对外友好協会会長**

しかし、先ほどの話の中にありましたが、シルクロードを挙げていましたね。日本の皆さまにとってはシルクロードというのは非常に魅力のあるところだということで、また、



若い人々が交流するというのも提案がありましたので、ヌル・ベクリさんから、新疆ウイグル自治区が青少年交流でどのようなことができるか、どういう提案があるかということをお話したいと思っています。

#### **ヌル・ベクリ 新疆ウイグル自治区主席**

先ほどのご発言で非常に感じる場所がありました。2000年前のシルクロードが東と西を結びつけたと。これを現代の目から見ると、シルクロード自体が商業のいわゆる交流をするような、そして友好の道になっていた。その中の、特に友好の道であったと思います。それはもちろん他にも、十字軍の道とか、征服の道も歴史的にはあったと思いますが、しかしながら、シルクロードは違いますね。

新疆はシルクロードの中でも非常に重要な一つの通路になっていたところでした。東と西の交流の中で、非常に大きな貢献をしてきたと思います。また、交流の過程において、いろいろな文化、文明というのが新疆という場所に混じり合って、中にはそれがぶつかり合って、そして溶け合うというような形になりました。そして、非常に貴重な文化遺産を残してきたと思います。

新疆の今から見ますと、中央政府は新疆の発展を非常に重視しております。新中国ができあがって60年以上ですが、その3代にわたる国家指導者は、いろいろな時期において、新疆の発展のために大きな決断をしてまいりました。特に2010年には、中央政府は新疆に関する会議を開きまして、新疆の発展を推進するさまざまな措置を話し合いました。それについては先ほども簡単に申し上げましたが、今の新疆は、まさにちょうど一番いい発展の時期にあると言えます。

また、われわれの強みですが、資源に恵まれていること以外にも、やはり地理的な、いわゆる八つの国と国境を境に面しているという地理です。カシュガルやホルゴスは今、経済開発区という形で指定されております。そして、東部の経済開発区以上に優遇条件の開発区の計画を進めています。ですから、周辺の国々、日本も含めたという意味での周辺の国々との交流、協力にとっては非常に素晴らしい基礎が今、できあがっていると言えます。

ですから、そういう意味で、さらにもう一度シルクロードを作るということ、それが現在私たちが注目して考えるべき問題ではないかと思います。また、さらに西に向かって解放していくということで、そして、同時に内側にある内地の省や区との間の協力を強化することによって、新しいシルクロードを作っていくと。その中でわれわれは貢献してい

たいと思っております。

その中で、青少年の交流も非常に重要に感じております。青少年は国の将来を担っています。青少年の交流というのは、やはり、お互いの理解を促進するという、また、いわゆる国と国の将来の発展の方向性を定める基礎になると思います。

新疆は、この数年間、国の各省庁などが支援する中で、意識的に中日の、特に日本と新疆の青少年の交流の推進に力を入れてまいりました。毎年、日本からの青少年が新疆に視察、訪問していますし、新疆の中学、小学生が、日本に行って勉強しているということもあります。

ですから、こういうような交流を通じて感情面でもかなり深くなりましたし、そして将来的には新疆と日本の間の協力関係の素晴らしい基礎を作っているのではないかと思います。国が統一的な計画をする中にわれわれも入って、この交流の活動をさらに強化したいと思います。そういう形で青少年の交流、そして行き来を盛んにしたいと考えております。

新疆は、今、中国においてはまだ発展が十分ではない地域であります。さっき、中国自体が発展途上と言いましたが、新疆はそうですね。東部だけの反映を見ていては、やはり中国と言えないと。中国の西部の少し遅れたところも見ていただくということが、客観的に中国を理解することだと思います。

しかしながら、新疆だけを言いますと、一つまた私は思いますのは、発展に遅れているからこそ、さらに非常に大きなビジネスチャンスがあると。遅れているからこそ、ある意味ではさらなる協力、交流、そしてともに発展していくチャンスを探ることができると思うんですね。ですから、日本の地方自治体の皆さまと一緒に協力し、ウイン・ウインの原則の下に、双方の発展に資するような協力をしていきたいと思っております。

今回、日本に参りまして、ここにいらっしゃる皆さま、他の省、区の方々が日本の県の皆さまとそれぞれ友好締結をしているということで、それについて、われわれ新疆はまだまだ空白があるのではないかと思います。ぜひ、この機会を利用して、さらにその部分で推進していきたいと思えますし、また、日本と新疆が結びつくような線を、このような交流を通じて、最も短い時間の中に作っていき、そして、ある日本の具体的な県と友好関係を結んでいきたいと期待しております。

## 山田啓二 全国知事会会長

私たちはやはりこれから 21 世紀のシルクロードを作らなければいけないのではないでし

ようか。今も、シルクロードから日本にもたらされた宝は、奈良の正倉院にあって、わが国にとりましてかけがえのない宝になっております。そして、新しい宝をこれから 21 世紀のシルクロードで作らなければいけないと思うんですけれども、阿部知事も青少年の交流をうたわれておりますが、いかがでしょうか。

時間が押してまいりましたので、できるだけコメントは短めにお願いします。

## 阿部守一 長野県知事

分かりました。

まず、青少年交流は、私も、ヌル・ベクリ主席がおっしゃっているように、末永く良好な友好関係を作る上では非常に基礎となるものだと思っております。

そういう意味で、先ほどお話した国際青少年交流農村宣言、私としては長野県の、特に農村、先ほどお話にありましたけれども、いわゆる 20 世紀型の価値観から言うと農村地帯というのはやはり日本では遅れている地域だというふうにも言われることもありますが、私は、21 世紀型、あるいは未来志向で考えれば、実は農村こそ食糧の供給基地であり、そして自然が残されて、なおかつ、シルクロードの文化にはかないませんが、やはり日本の素晴らしい伝統文化が残っている地域でありますから、こういうところを舞台に、ぜひ、世界中の若者が交流する、そういう長野県にしていきたい。ぜひ、中国の皆さんとは相互交流をする中でお互いの理解と協力を深めていきたいと思っております。

もう 1 点よろしいですか。短くということですが。先ほど、長野県は日本で最も死亡率が低いと、健康長寿県だということで申し上げました。健康長寿というのは、やはり人間として最もこれから、長生きでしかも健康でいるというのは目指すべきことだと思いますけれども、長野県としては、実はそれに関連して、産業面でも医療産業、健康産業というものを形づくっていかうと思っております。

例えば、精密技術が長野県は非常に進んだ地域でありますので、これは世界でも非常に有数の人工心肺を製造するメーカーとか、そういう企業もあります。中国は非常に広い面積で広大な国土を利用しての大規模な産業に適した地域だと思いますけれども、長野県は、小さな日本の中でもさらに精密加工技術に特化して産業が発展してきた地域でありますので、そういう意味で、中国と実は極端な違う形での補完協力関係を築ける地域だと思っておりますので、ぜひ、また皆さま方と色々な形で産業面での交流も深めていきたいと思っております。以上です。

## 李小林 中国人民对外友好協会会長

先ほど、長野県の阿部知事から農業のお話が出ましたし、また、高齢化のお話をいただきましたので、安徽省の李斌さんから、中国から今回来ました唯一の女性省長ですので、中国の都市化とかについてお話をいただきたいと思います。この問題というのは大変重要だと思っております。今後の発展についても大変重要な問題です。高齢化もしかりですので、李斌さんにお話しいただきます。

## 李斌 安徽省省長

先ほど、阿部知事から、長野県の人たちがとても健康で長寿であるということ、農村が発展しているというお話をいただきました。

実は、2回ほど長野県にお邪魔させていただきました、とても印象深く思っております。当時は、吉林省で仕事をしていたときに行ったんですけども、長野県には長春市のスキー場との関係がありまして、感謝を申し上げに行ったということがございます。と同時に、長野県で農業交流を行っておりまして、当時、視察で長野県にお邪魔しております。そのときに長野県の、多分前の知事だと思うんですけども、もう今は引退されている方ではないかと思うんですけども、今回、阿部知事にもお会いできて、とても親しみを感じております。

安徽省というのは農業大省でありまして、食料の総生産量は去年は620億斤という、そういう単位なんですけれども。主に生産されているものが小麦です。それからアブラナ、お米などが生産されておりますけれども、今年はまたかなりの収穫が見込まれております。小麦はかなりいい勢いで伸びておりますし、かなりの収穫が見込まれております。

安徽省というのは、また、人口も大変多く、6800万人もおります。よって、各政府、自治体が、人々の健康な生活に大変注意しております。かなり早い時期から、国の要求に基づきまして、医療衛生事業を改革しております。

基本的には、現在、全省民の医療保障制度というのができあがっております。都市に住んでいる人たち、農村に住んでいる人たちの、合作医療と言っておりますが、それが整備されております。その基準もどんどん向上し続けておりまして、人々が病院に行き診てもらったときに、60%はそういった保険制度からお金が出るようになっております。

また、各政府も医療機関に対しての投資を行っております。全面的に、郷、鎮と村の衛生院というところがあるんですが、そこの改造を行っておりまして、郷、鎮のレベルでも

衛生院ができあがっております。それから、村でも衛生士がいるようになっております。また、薬の価格の小売りと卸の間の価格差であまり利潤が出ないようにするように、消費者に提供しております。そういった部分の収入は政府からの補助金で補っています。

また、安徽省は医療機械でもかなりの産業がありまして、最近、日本の企業が安徽省に投資を行っております。医療設備の生産を行う、また、消耗品の生産を行うということで安徽省に投資を行い、かなりいい業績を上げているようです。

よって、日本との間でもかなりの交流の潜在力があると思っています。農産物の加工でもそうですし、新潟県もその面ではかなりの力があると思っています。農産物の精密加工、高度加工というのもやりたいと思っています。古川先生がおっしゃった和牛、とても興味があるんです。佐賀牛にとっても興味がありますので、こういった場を借りましてさらに交流させていただければと思っています。

## 山田啓二 全国知事会会長

ありがとうございました。これからの医療の問題、そして、さらに農業問題へと交流の幅がどんどん広がっていくような気がいたしますけれども、尾崎知事の方から一言お願いいたします。

## 尾崎正直 高知県知事

私のおります高知県、これは日本の中でも有数のお酒を飲む県でありまして、私も本当に中国の皆さんとも、この近年、いろんな形でお酒を飲む交流をさせていただきました。干杯干杯といろいろやらせていただいた。井頓泉先生ともしっかりやらせていただきましたし、また、安徽省へ行かせていただいて、いろんなビジネスマンの方、それから省のスタッフの皆さんともやらせていただいた。そして、先ほど申し上げました、高知に進出をしてくださった中国の企業の皆さんとも一緒に交流をさせていただきました。干杯を連続して4回やると兄弟になるんだと言われて、私も一生懸命、日本酒でしたけれども、やらせていただいたりしたこともございました。

そういう中でつくづく思いましたのは、ある意味、本当にお酒を飲んで交流していると、中国の皆さんとは気が合うといえますか、本当にお互いウイン・ウインのビジネスを求めていく、そういうことを求めていく関係同士、お互い、実に気が合う関係というのを作れるものだなということを実感を、私自身、いたしたところです。ある意味、今の高度成長

を続ける中国の皆さんのお姿というのは、一昔前の日本の猛烈サラリーマンのお姿に非常に似ているなどと思わせてもいただいたところでした。

ぜひ、具体的なウイン・ウインの関係を目指すようなプロジェクトをお互いにそれぞれの姉妹都市間などで進めていくということが非常に重要ではないかと考えています。できるだけ具体的な形のプロジェクトを推進するという事です。

そういう点から行きますと、われわれは安徽省の皆さんに大変感謝を申し上げておりますのは、今年の9月でありますけれども、中国安徽農業産業化交易会、安徽省が主催されますこの商談会に、われわれ高知県の者を招いていただきまして、無料でブースを提供いただいて、われわれの農産物とか加工品とかそういうものの売り込みをさせていただく予定となっているところです。

また、われわれ高知県も、ぜひ安徽省の皆さんに来ていただいて、そういう機会をご提供できればと考えているところではありますが、ぜひ、ウイン・ウインの関係を目指して、具体的なプロジェクトの推進を進めていければと、そのように考えているところです。

そうすれば、そして恐らくそういうビジネスをやった後にお酒を一緒に飲んだりすれば、お互い仲のいい関係を持っている、個人的な人間関係がたくさんできあがっていくことと思います。これこそが日中の友好に、真の意味の友好につながっていくのではないかと、そのように思わせていただきました。私自身の実感からお話を申し上げたところです。

#### **李小林 中国人民对外友好協会会長**

高知県の尾崎知事からお話がありました。企業界、私たちのお酒を飲む交流が大事だというお話がありました。お酒の文化というのは、実は中国でもかなり長い歴史がある文化です。それでは、吉林省の竺副省长から、お酒を飲むということ以外に中国と日本の間での経済交流で何か強みはありますか。それから、問題があったら、ぜひこういった場所でお話しいただければと思います。

#### **竺延風 吉林省副省长**

お酒はあまり飲めない方です。しかし、日本の友人と飲むと、かなり、最大限まで飲むようにしております。飲めてしまいます。

日本の企業の人たちとの交流というのは、実はすごく多くて、私の仕事の中でもかなりのウエートを占めております。20年以上も日本の企業との間での交流があります。また、

マーケット、貿易、技術、さまざまな分野の方々との交流があります。尾崎知事も、安徽省のお話もありましたし、それから、李さんが新潟県の話を出しましたけれども、私は結構、新潟県とのお話がかなり多いんですね。それから、高知県との交流もあります。

企業関係での問題が幾つか、実はあるんですけども、政府レベルで言いますと、私たちはさまざまな市場、マーケットをやはりきちんと紹介してあげる必要があると思っています。マーケットとニーズと私たちの産業の強みを結びつけていくか、そして彼らがどのように計画を立てていくかというときに、私たちがそれに参考になるような情報提供をしていく必要があると思います。

私たちは大変情熱があって「こんにちは、よろしく」ということで、それで終わってしまうことがあるんですね。実際に実務的なことを行っていこうとするときに、なかなかうまくいかないということに直面しています。

ですから、実務的にもものを行っていく際に、市場のニーズがどういったものがあるか。社会の状態も、市場にさまざまなものを任せて、それによって社会が変化していくこともあります。例えば高齢化の話もあります。そういった問題もありますので、政府側の人間としては、マーケットのツールを使ってニーズをきちんと把握して、産業の人たちに伝えてあげるべきだと思っています。

それから、地域間の交流ですけども、現在は、いかにして簡単に行えるようにするかということがあります。お互いの人々の交流もありますし、それがもっと便利になる必要があると思うんです。

そのためには条件があります。国内でも、日本に行くのに中国の国内の他の都市に行くよりも便利な都市というのもあるんです。でも、手続きがとても複雑だなと思います。ですから、地域間の自治体間で、中央政府、国に対して提言をしていけないか、もっと利便性を向上させられないかと思います。中国の広州（杭州？）に行くのは日本に行くのより実は遠いんです。でも、利便性でいけば、広州に行くのは楽なんです。日本に来るのは煩雑な手続きが必要になります。よって、地域の間で、李さんもいらっしゃいますし、外交レベルになるかもしれないんですけども、もっと利便性を高めるために何かできないかということを提言したいと思っています。

特に、先ほど観光の話がたくさん出ましたけれども、観光は実は団体観光だけではなく、民間交流を進めていく上で大変重要だと思うんです。そういった交流の中で、かなり成功できると思うのは、両国の文化がかなり似通っているということがあります。市場経済が

構築されてから、日本の方がそれがずっと先輩なわけですから、中国の現在発展途上にある中で、産業間の協力の中でもかなり学べる場所があります。

お酒の話も出ました。中国では乾杯をします。その中にもかなりの誠意があるんですね。さまざまな問題を話す必要があります。逃げて、どこか遠回りするのではなくて、お互いに腹を割って話し合うということが必要だと思います。私たちにはとてもいい文化があります。乾杯すれば1000年の憂いも溶けるというような、そういう文化がお互いにあるわけですから、日本の方々とおつきあいをし、誠意というのが大変重要だと思っています。それがないとなかなか成功しないと思います。以上です。

## 山田啓二 全国知事会会長

腹を割って話すのは、また夜のうちにできると思いますので。

そろそろ時間が来てしまいましたので、非常に短いコメントで結構なんですけれども、まず日本側からは古川知事に、締めくくりとしてのコメントをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 古川康 佐賀県知事

今、利便性の向上というお話がございましたけれども、私も全く同感です。例えば、今、中国内陸部の方が日本に旅行しようとする、日本の総領事館のあるところまで出ていかなければなりません。これがかなり手間になっています。例えば日本と中国の間を結ぶ航空路線のあるところの旅行社がまとめてできるようにすれば、それだけでも非常に訪日旅行がしやすくなるはずですよ。

今までは団体の旅行が多かったんですが、これからは中国の方も個人旅行で日本に来ることも増えてくると思います。そうしたことをより可能にするために、われわれは日本政府に、そして皆さんたちは中国政府に、お互いの旅行がもっと便利になるようにしようということをするのは、非常に意味のあることだと思います。

また、もう一つ申し上げれば、今日、この『安徽省の旅』というアジアトラベルの本を見て感心いたしました。非常に詳しく載っていました。包（パオ）公園のことも載ってまして、包青天（パオセイテン）先生のことが載っていたので、大変うれしく思いました。なぜかといえば、佐賀県はレンコンの産地でもあるからでございます。

こうした地方の詳しい情報というのが、なかなか中国の人にも知られていない。日本の



人も、北京や上海のことは知っているけれども、中国の全省、全区のことは知らないということがあると思います。例えば、中国全省、全区の旅行ガイドマップを作る。日本の47都道府県のガイドマップを中国人の人に向けて作る。こうしたことをやっていくと、より、それぞれの地方に旅がしやすくなるのではないかと思います。

こうしたことをやっていくためにも、この交流を続けていくことが何より大事だと思います。泉田知事からのご提案にもあったように、ぜひ、このフォーラムを続けていければと思います。以上です。

#### **李小林 中国人民对外友好協会会長**

佐賀県の古川知事は、この両国の観光の強化、そしてサービス業も含めてのクオリティーの向上について言及されたと思います。今日のフォーラムは時間が限られているんですけども、くれぐれも忘れてはいけないのは、エネルギーの話、これは外せないと思います。林さんに話していただきたい。資源エネルギー、地熱の話がありましたね。ですから、林さん、エネルギー関連の、そして広西チワン族の観光の誘致、PRもしてください。

#### **林念修 広西チワン族自治区副主席**

このチャンスをいただいて、ありがとうございます。

エネルギーは、あまりにも大きなテーマですね。確かに中国は急成長を遂げています。エネルギーが非常に制約されています。ボトルネックになっています。

われわれは、一方でエネルギーの確保をすると同時に、省エネの取り組みがとても重要になってきていると思います。制限がたくさんあるんですが、また、一方で、エネルギーの産出もしているんです。ただし、人口が多くて、一人あたりのエネルギーの占有率というのは非常に低い水準であります。ですから、今後の成長の中で、省エネルギーを前提条件と設定した上で成長を図らなければなりません。

これは中央政府もそうですけれども、地方政府も非常にエネルギーの節約を重視しています。エネルギー消費量の効率化、そしてクオリティーの高い成長を確保する、これは省政府の重要な措置です。また、エネルギーの使用効率の向上、これも細心の注意を払っていきます。

と同時に、クリーンエネルギーの発展ですね。広西チワン族自治区を例にしますと、広西の資源は豊富です。レアメタル、非鉄金属がたくさんあります。ただ、不足しているエ

エネルギーもあるんですね。石炭が足りません。オイルも足りません。著しく不足しています。向こう5年間、10年間の経済規模は、恐らく2倍、4倍に拡大します。ですから、エネルギーが大きな問題としてのしかかってくるでしょう。ですから、さらにエネルギーの供給を一生懸命増やすと同時に省エネへの取り組みを行います。ただし、石炭が幸いまだ中国にはたくさんあるので、石炭の利用率を高めたいと思います。また、水資源が豊富という特長を生かして、水力発電も開発していきます。その際は、できるだけ生態系を壊さないように注意したいと思います。

3点目のこれからの取り組みの方向、これは原発ですね。先ほど、新潟の知事からもありましたけれども、エネルギー、原発があります。エネルギーはもちろんクリーンで、比較的コストが安いエネルギーのリソースです。もちろん、開発している間は安全性の問題を重視していきます。今後、クリーンエネルギーの発展、これは風力発電、ソーラーパネルなども含めて新エネルギーの開発に力を入れて、そして日本からの協力を得てやっていきたいと思っています。

二つ目の大きな問題、これは貴重なチャンスですけれども、阿部知事から健康問題、医療産業についてお話がありましたね。巴馬県があるんです。これは長寿の県としてちょっとした有名なところです。中国の最も長寿なご老人は126歳です。100歳以上のお年寄りわが自治区には何人もいらっしゃいます。これをブランドにしていきたいです。

このブランドを生かして、健康産業を興したいと思います。広西チワン族の空気がおいしいですし、水もきれいです。ただし、ないものもあるんですね。ないものをこれから提供していきます。技術もそうです。そして、ハーバード大学、それから北京にある解放軍総病院と、健康、養生、レジャー、保養施設のような産業を興したいと、関係部門の協力を得てやっていきたいと思います。長野県のこの辺の協力をぜひいただけたらと思います。また改めて申請をさせていただきます。

来年のフォーラムをわが広西チワン族自治区でできないかと、強く要望したいと思います。

#### **李小林 中国人民対外友好協会会長**

では、私からも最後に一言申し上げたいと思います。全ての日本の県が素晴らしい保養地です。どの県も素晴らしい保養地。どの県にもおいしい空気、おいしい水があります。そして、おいしい料理があります。また、よい温泉が各県にあります。今回の訪日中に、

ぜひ各省長に日本の各県のおいしい食事、料理、おいしい空気と温泉を体験してもらいたいと思います。

改めて、日本の知事、そして中国の省長の皆さんに感謝を、御礼を申し上げます。ありがとうございました。(拍手)

## **山田啓二 全国知事会会長**

本当に、この日中の知事の交流を始めてから実は38年がたっているんですけども、今回ほど有意義な形になったのは初めてではないでしょうか。それだけやはり、このフォーラムを行って話し合いを続けていけば、まだまだどんどんいいアイデアが出てくる、そんな感じがいたしました。

そうした思いを込めて、私たちは、今、このフォーラムを通じての共通の思いを共同宣言として取りまとめたいと思っております。まずは、共同文書の原案につきまして、日中それぞれの事務局から原案を読み上げさせたいと思います。では、まず日本の方から、橋本事務総長にお願いを申し上げます。

## **橋本光男 全国知事会事務総長**

それでは、宣言案を読みます。

### **第1回日中知事省長フォーラム宣言案**

日中国交正常化40周年を記念し、日本国全国知事会ならびに中国人民対外友好協会および中日友好協会との共催による第1回日中知事省長フォーラムが、東京で多くの関係者の参加の下に開催された。

日本側からは山田啓二京都府知事をはじめ、上田清司埼玉県知事、泉田裕彦新潟県知事、阿部守一長野県知事、尾崎正直高知県知事、古川康佐賀県知事、藤井喜臣鳥取県副知事、小林淳一島根県副知事、海老井悦子福岡県副知事および兵谷芳康熊本県副知事が、中国側からは張毅寧夏回族自治区書記、ヌル・ベクリ新疆ウイグル自治区主席、李斌安徽省省長、竺延風吉林省副省長および林念修広西チワン族自治区副主席が出席した。

このフォーラムにおいては、両国の地方政府首脳たちが、いかに地域間の交流の強化、発展を図るかについて、友好的で活発な意見交換を行い、幅広い認識を共有するに至った。ここに、双方は、以下のとおり宣言を發表する。

1. 日中両国の各地域の発展を図るうえで、地方政府間の交流と協力は重要な役割を担って

おり、両国国民の相互理解と友好の増進にも大きく寄与している。今後も、経済、文化、教育、科学技術、体育、青少年などさまざまな分野において、両国の地域間交流は一層強化し、発展させていく必要がある。

2. 特に、日中両国地方政府間においては、観光、経済、文化、エネルギー、環境保全などの分野において相互に協力できる部分があり、今回、私たちは、率直に意見を交わし、提言を行った。これらを踏まえ、今後、これらの分野における交流と協力を深化、強化し、より多くの実質的な成果をあげるよう努力していくことで一致した。

3. 日中知事省長フォーラムは、両国の知事・省長間交流の重要なプラットフォームであり、両国地方政府間の交流、協力を強化していくうえで大きな役割を果たしている。今後、このフォーラムの充実を図り、両国の地域間交流、協力を深化させ、ひいては両国民の友好の増進、安定した日中友好関係の推進にも資するよう努力していく。

日本国全国知事会

中国人民対外友好協会

中国日本友好協会

2012年4月18日 東京にて

#### **山田啓二 全国知事会会長**

中国側、お願いいたします。

#### **井頓泉 中国日本友好協会副会長**

##### **第1回中日知事省長フォーラム東京宣言草案**

日中国交正常化40周年に際して、中国人民対外友好協会、中日友好協会、そして日本の全国知事会が共同で第1回の中日知事省長フォーラムを東京で開催し、双方の参加の下、東京で成功裏にこれが開催されました。

中国側には寧夏回族自治区の張毅書記、新疆ウイグル自治区ヌル・ベクリ主席、安徽省省長李斌氏、吉林省竺延風副省長および広西チワン族自治区林念修副主席が参加し、日本側は京都府知事山田啓二様、埼玉県上田知事、新潟県泉田知事、長野県阿部知事、高知県尾崎知事、佐賀県古川知事、鳥取県藤井副知事、島根県小林副知事、福岡県海老井副知事、熊本県兵谷副知事が出席しました。

フォーラムにおいて、両国地方政府の首脳は、いかにして地方政府の交流を発展、強化

するかについて、友好的な、そして熱烈な討論を行い、共通認識を得た。共同宣言としてその内容を発表する。

1. 日中両国の地方政府間の交流と協力は、両国の各地域の発展、そして両国民の相互理解のために、大きな、重要な役割を果たしている。今後、われわれはさらに両国の地域間の経済、文化、教育、科学技術、体育、青少年など各分野における交流を強化する。

2. 日中の地方政府は、観光、経済、文化、エネルギー、省エネ、環境保護などの分野において、大いなる協力の余地がある。われわれはこれについて意見を率直に交換し、一致した認識を得た。両国政府は、今後、さらに上記の分野における交流と協力を強化し、そして、より多くの実質的な成果を収める。

3. このフォーラムは、両国の省長・知事が交流する重要なプラットフォームであり、両国の地方政府の交流の推進のために大きな役割を發揮している。今後、さらにこのフォーラムの内容を充実化させ、両国の地方間の交流、協力を深め、国民の友情を深め、日中関係の安定的な発展のために努力をする。

中国人民対外友好協会

中国日本友好協会

日本全国知事会

2012年4月18日 東京

(拍手)

### 山田啓二 全国知事会会長

まさに、今、お話がありましたように、このフォーラムこそが日中国交正常化40周年を記念しての、新しい日中関係をさらに進める原動力になるという思いが込められた共同宣言でありました。この共同宣言について、特にご異議がございませんでしたら、これをわれわれの共通の思いとしてまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(拍手)

ありがとうございました。それでは、この案を今回のフォーラムの成果として、「東京宣言」として発表することにさせていただきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして終わりとし、この後、乾杯を交わす中でさらに友好を深めさせていただきたいと思っておりますので、夜の方もよろしくお願いを申し上げます。本当にありがとうございました。

## 5. 記念品交換

日本側から訪日団：「芽生え松」を印した漆器の銘々皿

日本側から主催団体：「源氏物語絵図」の西陣織の額

中国側から日本側参加者：記念品（陶器水筒）

## 6. 共同記者会見（要旨）

日本側出席者：山田啓二 全国知事会会長（京都府知事）

中国側出席者：李小林 中国人民对外友好協会会長、井頓泉 中日友好協会副会長

### 山田会長

日中国交正常化40周年という記念すべき年に、こうして第一回の日中知事省長フォーラムを開催することが出来て大変うれしく思っております。

実は、この日中の知事と省長の交流というのは、すでに37年間の歴史がありますけれども、フォーラムという形でお互いがテーブルについて、フェイストゥフェイスで話し合ったというのは初めての試みであります。

これは、まさに地域と地域の関係が、ウィンウィンの関係を両国の間に作り出せる大きなキーになっているということの象徴ではないかと私は思っております。

本日のフォーラムにおきましても、観光から経済の問題、医療の問題、環境エネルギーの問題まで、両国の地方政府が抱えている多くの問題が提起されました。

そしていずれの問題についても、地方政府同士が協力を深めることによって、すばらしい前進の関係を築くことができると私たちは確認することが出来たと思っております。

その面から申しますと、この日中知事省長フォーラムの第一回というのは、良いスタートを切れたと思います。ただ、これはあくまでもスタートであって、これからこの中身を充実させていくことが、日本と中国の固い友好関係をグラスルーツで深めていく源になると私たちは信じております。

改めまして、李小林会長、張毅団長をはじめ、中国側のこの間のご尽力に対し心から御礼を申し上げ、そしてこれからも深い絆のもとに、日中知事省長フォーラムがさらに来年に向かって大きな進展を遂げますことを願い、私の総括の言葉とさせていただきます。

李小林会長

私は中国人民対外友好協会会長で、中国人民対外友好協会は1954年に創立され、中国でもっとも歴史のある民間団体であります。この協会の趣旨としては中国人民と世界各国の人民との相互理解と友情を深め、そして世界の平和を擁護することです。

対外友好協会が創設されて57年来、私どもは既に世界130カ国以上の、500以上の民間組織と友好関係を結んできました。

そして我が協会は日本各会の友人と長く交流を続けてきました。特別に紹介したいと思っておりますが、私の右に座っているのは中日友好協会副会長の井頓泉であります。

中日友好協会は対外人民友好協会とともに最も古い友好協会であり、もっぱら対日友好協力の仕事に携わっています。中日友好協会では総会が開かれ新しい会長が選挙で選ばれました。すなわち前国務委員の唐家璇先生が中日友好協会の新しい会長になりました。

このたび中国人民対外友好協会、中日友好協会、そして全国知事会の共催で第一回中日省長知事フォーラムを開催することとなりました。短い時間でこのフォーラムは大きな成果をあげました。こういったような話をもちまして中日両国の地方政府間の交流をさらに進めて行きたいと考えております。

先ほど、山田会長はこのフォーラムに対して、とても全面的な評価をなさいました。本当に私は山田先生のお話に賛成であります。

このたび中国省長代表団の主なメンバーは5名の省長たちとプラスの一人によって構成されておりますが、5名の省長もしくは自治区書記、副省長はいずれもこれから中日友好交流関係を促進するという意欲があります。

そして、私どもは本当に日本の知事の方々とより一層の協力を進めて行きたいと考えております。ありがとうございました。

TBSテレビ記者

今日、このような感じで地域間の交流を深めていくというフォーラムがあった一方で、東京都知事の尖閣諸島の問題ですが、そのことで山田会長を含め、一省長がそういったことをすることの行為について日中間の関係を深めて行く上でどう思われているのかということ、山田会長をはじめ李小林会長に伺いたい。

山田会長

まず、基本的には、この記者会見は日中知事省長フォーラムの記者会見でありますので、個々の知事さんの行動についてコメントをする場ではなく、また、私にコメントをする権限があるわけではないので、そのことについて申し上げるのは、私は差し控えさせていただきたいと思います。ただ、こうしたさまざまな思いをあわせて、我々は日中地方政府がこれから日本と中国の友好のために力を合わせて進んで行かなくてはならない、それこそが日中友好の一番大きな原動力になるんだということを、今日は確信することができたということではないでしょうか。

それだけに、これから日本と中国の地方政府がそれぞれもっている問題について、こうしてフェイストゥフェイスで話し合っていくこと、それによって固い絆を作ることが、両国のいかなる問題を乗り越える上でも大変大きな意味を持っていると考えておりまして、改めて日中知事省長フォーラムの意義というものを私は実感しているところであります。

李小林会長

この質問について、私の隣に座っている井頓泉副会長に答えて頂きたいと思います。井頓泉副会長は、長期にわたって中日友好交流に携わっております。

井頓泉副会長

私たちは、ごく少数の人は問題についての言論に留意しております。中国側はこういう問題についての立場は一貫して明確です。こうした中日国交正常化40周年という節目の年にごく少数の人は公に出来ない目的を持って、両国の関係を挑発しようと、そして中日友好を破壊しようとする行為は必ず実現出来ないと思っております。

私たちは、これから中日友好という大局をさらに入念に守っていき、そしてごく個別の人が中日友好を損なう行為を実現させないようにしなければならないと思っております。

簡単に言えば、中日友好事業はよくやるのはとても難しい事ではありますが、中日友好を破壊するのは簡単な事です。

李小林会長

私からは一言。40年前、中国の国家指導者毛沢東主席や周恩来首相たちは、ことに中日友好を重視していました。貴国の田中角栄首相と中日国交正常化を実現しました。



40年前、そのときの中日関係は問題が存在しているかどうか、質問がありましたら、私の答えは「そのときも問題がありました」でした。

しかし、両国の続き世代の政治家たちは、政治的知恵そして政治的偏見を克服し格式をもって両国間の政治的問題を解決することが出来ました。

中国では「水を飲むとき井戸を掘った人を忘れてはならない」という格言があります。続き世代の中国の政治家たちはかつて戦場で日本軍と戦ったことがあります。しかしそれにも関わらず、日本と一緒にこれから中日両国は決して戦争することはないという偉大な合い言葉を打ち出しました。

そして、こうしたことは一つの理念であります。すなわち中日両国はともに努力し、そして中日友好が代々永遠に伝わっていくように努力するという意味であります。

40年後の今日に至って、次世代の政治家たちは上世代の政治家たちのように政治的な知恵、とても広大な情景をもって、両国の意見の食い違いや問題を解決することが出来るに違いないと確信しております。

中日両国には、人々を感動させることができる必要な事柄や物がたくさんあります。前回、私が日本を訪問した時に創価大学を訪問しました。周桜、白い夫婦桜という樹を見ました。創価大学の学生の方は私に、中国語で池田大作先生と周恩来総理との間の中国友好の話をしてくれました。そのとき、私は周桜、すなわち白い夫婦桜を見まして、このような正しい中日関係を私たちの世代で受け継いで発展しなくてはならないと思っておりました。

今後、プレスの皆様には是非客観的に、そして的確に中日両国関係の発展の面での報道をしてほしいと望んでおります。

個別の人の友好じゃない言論は証拠のないものであり、今年は中日国交国民友好交流年でありますので、中日両国の間で一連の友好交流のイベントを計画して、実行に移しつつありますが、皆さん、積極的に中日友好交流の報道をしてほしいと思います。

つまり中日友好という樹を、絶えず肥料をやり水を掛けて入念にこの樹を育てていく必要があると思います。中日友好を破壊すべきではありません。ありがとうございました。

山田会長

一言付け加えさせていただきますと、やはり相互の間にまだ溝があるんだと思っております。私自身は今回の件の論評は避けませんが、決して日中の友好を破壊しようとし

ているのではないと私は思っております。しかしながら、両国の受け取り方によっては、友好関係について誤解が生じることのないようにしていかなければならないということも事実であります。

したがって、こうしたフォーラムが必要だということは、お互いが言いたいことをきちんと言える、そういう関係を作っていくことによって、それぞれの主張というものがしっかりと交わされる、そういう関係を作っていかなければならないという時代に、日中国交正常化40周年という一つの節目を交えて、私たちは進んでいかななくてはならないと思っております。

まだまだ、それぞれの主張に違いがあるのかもしれませんが、それを乗り越えて、これからより一層、日中友好関係を、この日中知事省長フォーラムから作れることが、私たちにとりましてのこれからの大きな課題であり、また、それが大きな力ではないかと思っております。

李小林会長

私もそれを感じておりますが、中国では遠くの親戚より近くの他人というような言葉がありますが、中国としてはこれから日本と是非友好的につきあって行きたいと思っております。

李記者（香港）

河村名古屋市長の南京大虐殺に関する発言がありまして、今回は初めての日中知事省長フォーラムということで、自治体の長としてこの問題をどのように評価され、そして両国の政府が地方政府によって解決すべきことだと言っているのですが、自治体の長としこれは本当に自治体として解決できる問題でしょうか、コメントをしてください。

山田会長

両国には、それぞれの主張があり、それぞれの思いがあります。問題なのは、それをどういう形で乗り越えていくかということだと思っております。これを乗り越えていくためには、冷静かつフェイストゥフェイスでのしっかりとした議論をこれから積み重ねていくことが必要ではないでしょうか。

私たちがこの日中知事省長フォーラムを行っているのは、まさに地方政府同士がこういう関係を保つことによって、いろんな問題を乗り越えていくことが出来る新しい日中の友

好の関係を築くことができるようにするためであり、そういう面で、この日中知事省長フォーラムが私たちの回答の一つであると理解していただければありがたいと思います。

## 第1回日中知事・省長フォーラム宣言

日中国交正常化40周年を記念し、日本国全国知事会並びに中国人民対外友好協会及び中日友好協会との共催による第1回日中知事・省長フォーラムが、東京で多くの関係者の参加のもとに開催された。

日本側からは山田啓二京都府知事をはじめ、上田清司埼玉県知事、泉田裕彦新潟県知事、阿部守一長野県知事、尾崎正直高知県知事、古川康佐賀県知事、藤井喜臣鳥取県副知事、小林淳一島根県副知事、海老井悦子福岡県副知事及び兵谷芳康熊本県副知事が、中国側からは張毅寧夏回族自治区書記、努爾・白克力(ヌル・ベクリ)新疆ウイグル自治区主席、李斌安徽省省長、竺延風吉林省副省長及び林念修広西チワン族自治区副主席が出席した。

このフォーラムにおいては、両国の地方政府首脳達が、いかに地域間の交流の強化、発展を図るかについて、友好的で活発な意見交換を行い、幅広い認識を共有するに至った。ここに、双方は、以下のとおり宣言を發表する。

1. 日中両国の各地域の発展を図るうえで、地方政府間の交流と協力は重要な役割を担っており、両国国民の相互理解と友好の増進にも大きく寄与している。今後も、経済、文化、教育、科学技術、体育、青少年などさまざまな分野において、両国の地域間交流は一層強化し、発展させていく必要がある。
2. 特に、日中両国地方政府間においては、観光、経済、文化、エネルギー、環境保全などの分野において、相互に協力できる部分があり、今回、私たちは、率直に意見を交わし、提言を行った。これらを踏まえ、今後、これらの

分野における交流と協力を深化・強化し、より多くの実質的な成果をあげるよう努力していくことで一致した。

3. 日中知事・省長フォーラムは、両国の知事・省長間交流の重要なプラットフォームであり、両国地方政府間の交流・協力を強化していくうえで大きな役割を果たしている。今後、このフォーラムの充実を図り、両国の地域間交流・協力を深化させ、ひいては両国民の友好の増進、安定した日中友好関係の推進にも資するよう努力していく。

日本国全国知事会

中国人民対外友好協会

中国日本友好協会

2012.4. 18 東京にて

資 料

**張毅(ZHANG YI) 中国共産党寧夏回族自治区委員会書記**

男性、漢族、黒竜江省出身、1950年8月生まれ、東北林学院林業経済系卒業。大興安嶺地委書記、黒竜江省監察庁庁長、黒竜江省委副書記、河北省委副書記、中央紀律検査委員会秘書長、副書記などを歴任後、2010年より中央紀律検査委員会常務委員、中国共産党寧夏回族自治区委員会書記、寧夏回族自治区人民代表大会常務委員会主任を就任

**ヌル・ベクリ (NUER BAIKELI) 新疆ウイグル自治区主席**

男性、ウイグル族、新疆出身、1961年8月生まれ、中央党校修士。新疆大学政治系指導員、新疆カシュガル地区行政公署副専員、ウルムチ市委副書記、市長、新疆ウイグル自治区副書記、主席代行などを歴任後、2008年より現職

**李斌(LI BIN) 安徽省省長**

女性、漢族、遼寧省出身、1954年10月生まれ、経済学博士。長春市委宣伝部副部長、吉林社会科学院副院長、省計画委員会副主任、省体改委副主任、省長補佐、副省長、国家人口計生委副主任、主任、安徽省副書記、副省長、省長代行などを歴任後、2012年より現職

竺延風 (ZHU YANFENG) 吉林省常務副省長

男性、漢族、浙江省出身、1961年3月生まれ、修士卒業。高級エンジニア。中国第一汽車集團公司常務副総経理、総経理、中国共産党吉林省委員会常務委員、副省長などを歴任後、2008年より現職

林念修 (LIN NIANXIU) 広西チワン族自治区副主席

男性、漢族、山東省出身、1963年10月生まれ、西北電子通信工程学院卒業、経済学修士。機械電子工業部副処長、国家紀律検査委員会弁公庁秘書、国務院弁公庁秘書、国家能源指導グループ弁公室副主任などを歴任後、2011年より現職



## 寧夏回族自治区概要

寧夏回族自治区は 1958 年に設置され、中国の 5 つの少数民族自治区の一つである。自治区の土地面積は 6.64 万平方キロメートルあり、5 つの地級市、22 の県、市(区)を管轄し、区都は銀川市である。総人口は 632 万人で、このうち回族の人口は 36%である。2011 年の自治区の総生産は 2,060 億元であった。

寧夏は中国の西北地域東部に位置し、東隣りが陝西省で、西北部は内モンゴル自治区に接し、南部は甘肅省に連なり、中国の領土の幾何学的中心に近い位置にある。寧夏にはエネルギー、農業および観光の三大中堅産業がある。エネルギーの分野では、50 種類余りの鉱物が確認済みで、石炭埋蔵量は 310 億トンを超え、全国第 6 位で、1 人当たり石炭生産量は全国第 3 位である。火力発電、水力発電、風力発電、太陽光発電を行っており、1 人当たり発電量は全国第 1 位である。農業の分野では、寧夏は土地資源が豊富で、黄河が自治区内を 397 キロメートル流れ、黄河から水を引いて灌漑ができる。古くは「辺境の江南」との名声があり、現在では「中国の新天府(天然資源の豊富な地域)」と称されている。寧夏の 1 人当たりの耕地面積は全国第 3 位で、中国の 12 の重要な商品作物拠点の一つであり、世界でも高品質のブドウ栽培ビオトープの一つである。観光の分野では、寧夏はシルクロードの重要な通り道であり、古い黄河文明、神秘的な西夏文化、ノスタルジーが濃厚な風情、雄大な大砂漠の風景が、寧夏の多彩な観光資源を構成している。神秘的な西夏王陵は、西夏王国の盛衰の歴史を物語り、「東洋のピラミッド」と称され、数百キロメートルに及ぶ秦代の長城、明代の長城の遺跡は、中国の「長城博物館」と称されている。また須弥山石窟は中国の最も重

要な石窟芸術の宝庫の一つである。

## 寧夏と日本との交流概要

寧夏は一貫して対日交流を非常に重視してきた。近年、双方の友好都市関係が着実に進展し、民間交流が幅広く進められ、環境保全協力で著しい成果を上げており、産業協力の発展情勢は良好である。

**友好都市関係が着実に進展。**寧夏と島根県、寧夏石嘴山市と島根県浜田市、銀川市と島根県松江市はそれぞれ 1993 年、1994 年および 2004 年に友好省・自治区(都市)関係を締結した。友好関係を結んでから、双方のトップが互いに度々訪問し、自治区党委員会、人民代表大会、政府、政治協商会議指導者がこれまでに訪問団を率いて島根県を訪れている。島根県知事、副知事、議会議長、副議長なども訪問団を率いて寧夏を訪れた。

**文化交流を幅広く展開。**寧夏電視台と日本の山陰放送局は友好テレビ局関係を締結している。寧夏大学は島根県立大学および島根大学とそれぞれ友好大学関係を締結し、双方の学生が交換留学で学んでいる。双方は毎年「青年友好交流の翼」活動を実施している。寧夏は牧畜、水産、環境保全、医療衛生、文化財保護、建築施工、自動車修理、アパレル製作などを専門とする国際交流員、研修員、技術研修生などを日本に派遣している。

**環境保全協力で著しい成果。**日本の元首相村山富市氏、元内閣官

房長官武村正義氏などが訪問団を率いて寧夏を訪れ、植樹造林活動を行った。寧夏と島根は共同で酸性雨、黄砂および大気汚染などの課題研究プロジェクトに取り組み、「寧夏・島根友好林」造営合意書を締結しており、島根県は毎年県民友好交流団を組織して寧夏を訪れ、植樹造林活動を展開している。さらに寧夏と島根は寧夏で「汚泥総合利用技術」プロジェクトと「都市周辺良性循環生活環境形成技術協力」プロジェクトにも共同で取り組んでいる。

日系企業がさらに増加。寧夏は資源が豊富で、土地コスト、労働力コストが相対的に低く、産業付帯能力が比較的高く、風力発電と太陽光発電の分野で明確な優位性があり、ますます多くの日本企業の投資を引き付けている。日本の株式会社ヤマザキマザック、三菱重工業株式会社、豊田通商株式会社、株式会社キャタラー、日本金属株式会社、株式会社須崎鋳工所、株式会社クラレ、株式会社フェローテックなどが寧夏へ来て、自治区内の企業との合弁、独資または技術協力方式により提携を行っている。提携分野は工作機械の製造、ファンの製造、石炭の高度加工、マグネシウム合金加工、鋳造、太陽光発電などである。

## 安徽省概要

安徽省は「皖」と略称され、16の市からなり、総面積13.96万平方キロ、人口6800万人である。中国の中部に位置し、上海を中心とする揚子江デルタ経済区に隣接する、中国東部と西部の経済が融合する重要な地域である。2011年の省内総生産(GDP)が15110.3億人民元で、13.5%の伸び率である。

安徽省は自然景色が美しく物産も豊富である。中国で一番と三番目に大きい河、揚子江と淮河が省内を流れ、山紫水明で、温泉もたくさん湧き出ており、観光資源に恵まれ、中国有数の観光地となっている。「天下一の奇山」と呼ばれる黄山や、秘められた仏教の聖地と言われる九華山、そして翡翠のように嵌る太平湖や巢湖などがある。

安徽省は輝かしい文化を有し、数多くの名人を輩出している。老子、荘子、曹操、華佗と言った歴史人物も居れば、近・現代では数多くの文学者や、哲学者、企業家、科学者が現れた。中国系として初のノーベル物理学賞受賞者楊振寧氏も安徽省の出身である。「物華天宝、人傑地靈」。これは安徽省を語るのに最適の言葉であろう。

豊富な資源を有する安徽省では、科学教育事業が発達し、地理的優位性が高く、交通や通信などのインフラが整備されている。ここ数年、中国の中部振興戦略の実施や、東部・中部・西部地域の連動的発展、国内外の産業資本の移転加速に伴い、安徽省はまさに中国開放の最前線と戦略的要地になった。

勤勉な安徽人民は、「小康社会(いくらかゆとりのある社会)」を全面的に構築するために取り組んでいる。安徽省はこれから、「科学的発展」をテーマとし、包括的なモデル転換、振興の加速、住民

の裕福を軸とし、麗しい安徽省を建設するため全力を挙げていく。

## 安徽省と日本との交流概要

### 1、友好往来と友好都市間の交流が盛んである

安徽省と日本との間で政府と民間レベルで盛んな交流が行われており、現在日本の地方自治体 10 都市と友好都市を締結し、うち省クラス 1 都市、市クラス 9 都市。安徽省にとって、日本は友好都市の数が最も多い国である。双方は経済、貿易、文化、教育、スポーツ、農林業や衛生福祉などの分野における協力と交流が著しい成果を収めた。特に数十年も続いた「中日友好合同書道展」や「日中友好森作りネットワーク」などの事例も現れた。

### 2、経済面で著しい協力成果を収めた

2011 年の安徽省と日本との輸出入貿易額が 30 億米ドルに達した。2011 年末現在、投資が承認された日本企業が 405 社に、契約ベース投資額が 10.3 億米ドルに達し、それぞれ省全体の 4.6%と 3.9%を占める。2011 年だけで、新規に承認された日本の直接投資プロジェクトが 13 件、契約ベースの投資額が 2.6 億米ドル。前年比 60%増加し、安徽省にとって日本がその年の二番目の投資国である。なお、2011 年末現在、安徽省の企業 9 社が日本に進出しており、投資総額が 239.6 万米ドルに達している。

### 3、観光面の交流が急成長へ

安徽省が観光業を一層開放したお陰で、日本からの観光客が益々増加している。「第十一次五ヵ年計画」期間中、延べ 515908 人の日本人観光客を受け入れ、外国観光客の 7.66%を占める。ここ数年の日本での観光プロモーションやビジネス誘致活動が実り、山梨県、高知県、北海道など各地から訪問団を迎えている。。また説明会な

どの形で学び合い、観光面の安定かつ持続的な交流と協力のためのプラットフォームを作り上げた。また、安徽省と日本との航空協力プロジェクトの推進に伴い、安徽省の人々にとって、日本が海外観光地のベストチョイスの一つになりつつある。

## 新疆ウイグル自治区概要

新疆ウイグル自治区(以下、新疆と略称)は中国西北部の辺境の地、アジア・ヨーロッパ大陸の内陸部に位置し、面積は 166.49 万平方キロメートル余りで、中国の国土面積の 6 分の 1 を占め、中国で面積が最大の省である。陸地の境界線長さが 5,600 キロメートル余りあり、全国の陸地境界線総長の 4 分の 1 を占める。周辺はパキスタン、モンゴル、アフガニスタン、インド、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ロシアの 8 つの国と国境を接している。

新疆は古くから多民族が集まり居住しており、各種の宗教が併存する地域であり、前漢(紀元前 206 年～西暦 24 年)以降、中国が統一する多民族国家として分離不可能な構成部分となった。現在、47 の民族で構成され、主なものにウイグル族、漢族、カザフ族、回族、モンゴル族、キルギス族、シボ族、ダジキ族、ウズベク族、満族、ダフール族、タタール族、ロシア族の 13 の居住民族があり、中国の 5 つの少数民族自治区の一つとなっている。現在の常住人口は 2,181.33 万人である。

新疆の区都はウルムチで、5 つの自治州、7 つの地区、2 つの地区級市、20 の県級市を管轄しているほか、6 つの自治県、43 の民族郷および 62 の県がある。

新疆は土地が広く物産が豊富で、資源も豊かである。近年、経済と社会の各事業が飛躍的な発展を遂げた。2010 年には、自治区の年間総生産(GDP)は前年より 1,141.76 億元増え、5,418.81 億元となり、初めて 5,000 億元を突破した。1 人当たり総生産は 24,978 元で、当年の平均為替レートで換算すると、1 人当たり 3,690 米ドルとなり、初めて 1 人当たり 3,000 米ドルを突破した。

### 近年の新疆と日本の友好交流

改革開放以降、新疆と各国の友好交流が各分野で進められ、近年は特に急速な進展が見られる。日本との交流・協力も例外ではない。進展

状況が比較的良いのは次の分野である。

一. 政府と民間の交流: 民間での交流に比べ、新疆と日本政府の交流は比較的少なく、民間交流の方が活発である。最近では主に次のようなものなどがある。2009年5月、自治区党委員会常務委員で、副主席の楊剛氏が招待に応じ、新疆政府代表団を率いて日本を友好訪問した。2009年2月、9月、自治区政府文化顧問で、日本の友人である小島康誉氏が新疆を訪れ、自治区党委員会常務委員で、副主席の楊剛氏、自治区副主席のティリワルディ・アブドルシティ氏がそれぞれ会見した。2009年10月、静岡県日中友好協会の渥美泰一会長一行が新疆を訪れ、自治区の胡偉副主席が代表団と会見した。2010年8月と9月には、自治区政府文化顧問で、日本の友人である小島康誉氏が新疆を訪れ、自治区党委員会の張春賢書記が会見した。2011年3月に、日本の友好経済懇話会代表団が来訪し、自治区の黄衛副主席が会見した。2011年9月、自治区政府文化顧問で、日本の友人である小島康誉氏一行が新疆を訪れ、自治区党委員会の張春賢書記が会見した。

二. 教育: 改革開放以降、新疆の大学は、大学、教育研究機関を含む日本の教育会と積極的に協力を進めてきた。新疆大学をはじめとする大学は日本の40余りの大学と友好学校関係を結び、双方は科学研究協力、教師の相互派遣、学生交換交流などの活動に積極的に取り組んでいる。1984年より、新疆は大規模な地方奨学金公費派遣出国留学事業を展開しており、2007年までに日本へ合計291人を派遣した。このうち少数民族が90%余りを占める。90年代以降は、円借款プロジェクトのサポートで、日本の関係方面が、新疆の教育インフラ建設、大学の科学研究設備購入、大学教員および管理幹部の研修などにおいて、新疆に多額の出資援助を行った。JICA(国際協力機構)は長期に渡り新疆の大学へ日本語教育ボランティアを派遣している。小島康誉氏など日本の民間による奨学金が新疆大学などで設立され、新疆の青年学生の日本に対する理解と友好を深めた。このほか日本からの留学生も毎年新疆の各大学で学んでいる。新疆の中高生も日本の中高生との交流活動



に取り組んでいる。

三. 文化交流:新疆と日本の文化交流活動には、主に歌と舞踊の公演、文化財展と写真展、遺跡の共同発掘視察などがある。2007年から2011年の5年間で、新疆と日本は39項目の文化交流活動を共同で実施し、延べ300人近くが参加した。最近の主な活動としては、2011年11月9日から14日に行われた、新疆ウイグル自治区党委員会常務委員、自治区労働組合総連合会主席アルケジャン・トラホンが団長を務める「文化中国・魅力新疆」芸術団による日本公演、日中ダندانウイリク遺跡視察などがある。

四. 経済貿易協力:日本は中国の重要な貿易パートナーであるとともに、新疆の重要な輸出入市場でもある。新疆は80年代に日本と輸出入貿易を開始した。2011年の双方の輸出入貿易総額は、前年より31.55%増加し、22,299万米ドルとなった。現時点で、日本が新疆で投資設立する企業は27社あり、主な分野は医薬品・保健食品の製造、ホップの栽培・加工、農業総合開発などである。日本の積水化学工業株式会社と新疆永昌複合材料股份有限公司が共同で設立した新疆永昌積水複合材料有限公司は、現在業界でアジアトップの企業となっている。

五. 科学技術:現在、新疆の科学技術分野が日本と進めている主なプロジェクトはJICAとの協力による「新疆天然草地生態系保護および遊牧民定住モデル事業」プロジェクトである。このプロジェクトは2007年6月にスタートし、2011年10月末から11月初めにかけて、日中双方が共同評価調査団を組織し、プロジェクトに対して最終評価を行い、双方はプロジェクトが予定した目標を達成したという認識で一致した。同時期に、中国水利部がJICAと新疆で「草原生態系保護節水灌漑」プロジェクトを実施した。このほか、科学技術部の国際科学技術協力計画として、新疆中薬民族薬研究所は日本の近畿大学などと、「ニクジュウヨウ主要活性成分重要抽出技術の導入と製品の共同開発」に取り組んでいる。

## 吉林省概要

### 一、概況

「吉」という略称で呼ばれる吉林省は、中国東北の中部に位置している。面積は 18.74 万 k m<sup>2</sup>、人口は 2746.23 万人、GDP は 10531 億元に達する。今、吉林省は一つの副省レベルの市、七つの地区レベルの市、延辺朝鮮族自治州と長白山管理委員会、60 の県（市、区）を有している。省都は長春市で、著名な「自動車の都」、「映画の都」、「文化の都」、「森の都」と「彫刻の都」である。

吉林省には「1つの中心」「2つの基地」「3つの優位」がある。

1つの中心とは地理的な位置だ。吉林省はロシアと北朝鮮に接しており、最東端の琿春市から日本海まではわずか 15 キロしかない。中国東北部、北朝鮮、韓国、日本、モンゴル、ロシアの東シベリア地区などで構成する北東アジア地域の中心に位置するわけだ。

2つの基地とは、吉林省が中国の重要な工業基地であると同時に重要な食糧の生産基地であることを意味する。吉林省に加工製造業が発達して自動車製造や石油化学工業や農産品加工が支柱産業であり、医薬と光電子が優位性産業となっている。「ゴールドトウモロコシ地帯」及び「黒土地の故郷」とも呼ばれている。吉林省の一人あたりの食糧保有量、商品化された食糧の比率や肉類保有量は連年全国で1位となっている。

3つの優位は科学技術・教育、環境、資源の分野で吉林省が全国

をリードしていることだ。万人毎に科学技術者、エンジニアと在籍大学生数は全国の上位を占める。吉林省における自然保護区は 36 ヲ所、その内、省内の国土面積の 12.6%を占める。省全体の森林の被覆率は 43.4%に達し、東部地方に 70%以上に達して、国の生態建設のモデルの省である。吉林省は豊富な鉱物資源が有して、オイル・シェール、珪灰石、スコリアなどの蓄積量全国のトップを占めている。

## 二、対日交流

日本は吉林省にとって、第 4 位の輸出市場であり、第 2 位の貿易相手国と輸入相手国である。2011 年末まで、吉林省と日本の貿易額は 29.5 億ドルに達し、2010 年より 14.5%増えた。日系企業は 247 社であり、直接投資額は 7.36 億ドルである。その他、住友商事、伊藤忠商事、丸紅商事、トヨタ自動車、豊田通商、三井物産などの大型商事・会社が長春で事務所を設けておる。

吉林省は日本の友好関係ある県・民間組織と積極的に協力し、日本から提供した資金を利用して、技術研修、人材育成、緑化植林と病院・学校・浄水場を建てるプロジェクトを行って、経済の発展、生態環境の改善と生活レベルの高めに役立った。

1987 年に吉林省と宮城県が姉妹都市関係を締結した以降、また島根県、鳥取県、新潟県、それに秋田県と友好協力関係を結んだ。一方、長春市と仙台市、四平市と須坂市、吉林市と山形市・松江市、琿春市と境港市、大安市と八頭町が姉妹都市関係を締結した。

## 広西チワン族自治区概要

広西チワン族自治区は 1958 年 3 月に設置され、中国の 5 つの少数民族自治区の一つである。区都は南寧市で、現在 14 の地級市、109 の県(市、区)を管轄し、行政区域総面積は 23.67 万平方キロメートルある。居住民族には、チワン族、漢族、ヤオ族、ミャオ族、トン族、ムーラオ族、マオナン族、回族、キン族、イ族、スイ族、コーラオ族の 12 の民族がある。2010 年の時点で、総人口は約 5,100 万人、常住人口は約 4,603 万人であった。常住人口のうち、少数民族の人口は 38.86%で、約 1,853 万人である。このうちチワン族が広西の主体民族で人口は 32.85%を占め、約 1,566 万人であり、中国で人口が最も多い少数民族となっている。

1982 年に広西は熊本県と友好自治区・県関係を締結し、熊本県は広西の最初の自治区級友好都市となった。友好都市締結以降、双方は経済貿易、教育、文化、医療衛生、観光などの分野で、豊富で多彩な成果に富む交流を展開し、相互の理解と友好を深め、友好関係のさらなる発展を推進してきた。来年には広西と熊本の友好自治区・県関係締結 30 周年を迎える。

政府間の交流は密接である。友好関係締結より 30 年近くに渡り、双方のトップには密接に行き来があり、代々の熊本県知事はいずれも広西を訪れ、代々の自治区主席も熊本を訪問している。2011 年上半期までに、広西が招待に応じて熊本県を訪問した団体は 210 を超え、熊本県が訪問した団体は 230 を超え、双方の交流に参加した人員は延べ

4,000 人を超える。熊本県は 3 年連続で中国-ASEAN 博覧会に出展し、著しい成果を上げている。博覧会は広西と熊本県の経済貿易協力の良好なプラットフォームとなり、熊本県は中国 ASEAN ビジネスエリアの日本園で「熊本広場」を出展し、熊本県の食品、手工芸品および観光製品を展示している。双方の協力をより一層深めるために、熊本県は 2012 年 7 月に広西に事務所を開設する。

民間交流も活発である。政府間の交流以外に、広西と熊本の民間交流も非常に活発に行われている。これまでに、広西は何度も大型市民友好訪問団を熊本に派遣し、双方の人々の相互理解と友好を深めている。青少年交流事業では合計 6 団体 84 人が相互に派遣され、このうち広西は 3 団体 49 人を派遣し、熊本県からは 3 団体 35 人を受け入れた。

熊本県が受け入れた広西の留学生、技術研修生、国際交流員などは 500 人を超える。彼らは帰国後各自のポストで重要な役割を發揮している。

日中知事省長交流実績一覧

平成24年4月  
全国知事会国際室

	期間	団名	団長	構成員	訪問先(省・県名)
1	第1回訪中 昭49(1974) 8.20～8.31 (12日間)	全国知事会 代表知事団	前半：桑原愛知県知事 (会長)、後半：奥田 奈良県知事(副会長)	知事4名(愛知県・奈良県・高知県・広島 県)、副知事3名(宮城県・神奈川県・熊 本県)、随員5名、計12名	北京市、遼寧省(瀋陽)、上海市、浙江 省(杭州)、広東省(広州)
2	第1回来日 昭53(1978) 10.21～11.6 (17日間)	中国省市責 任者訪日代 表団	万里安徽省革命委員会 主任	省主任1名(安徽省)、省副主任6名(黒 龍江省・河北省・湖南省・北京市・甘肅省・四 川省)随員4名、計11名	東京都、茨城県、福岡県、広島県、奈良 県、京都県、愛知県、神奈川県
3	第2回訪中 昭55(1980) 10.27～11.8 (13日間)	全国知事会 訪中代表団	武市徳島県知事	知事1名(徳島県)、副知事4名(岡山県 ・大阪府・京都府・兵庫県)、随員2名、 計7名	北京市、四川省(成都)、上海市、浙江 省(杭州)、江蘇省(蘇州)
4	第2回来日 昭59(1984) 4.7～4.20 (14日間)	第二次中国 省長訪日代 表団	布赫内蒙古自治区主席	省長3名(内蒙古自治区・河南省・江西省 )、副省長2名(遼寧省・新疆ウイグル自 治区)、随員4名、計9名	東京都、神奈川県、京都府、兵庫県熊本 県、長崎県
5	第3回訪中 昭61(1986) 5.19～5.29 (11日間)	第三次全国 知事会訪中 代表団	前半：鈴木東京都知事 (会長)、後半：長野 岡山県知事	知事3名(東京都・岡山県・栃木県)副知 事2名(香川県・鹿児島県)、随員4名、 計9名	北京市、陝西省(西安)、浙江省(杭州) 、江蘇省(蘇州)、上海市
6	第3回来日 平2(1990) 10.11～10.21 (11日間)	第三次中国 省長訪日代 表団	白立忱寧夏回族自治区 主席	省長1名(寧夏回族自治区)、副省長4名 (雲南省・青海省・貴州省・吉林省)、随 員3名、計8名	東京都、栃木県、香川県、岡山県、奈良 県、大阪府
7	第4回訪中 平3(1991) 8.3～8.13 (11日間)	第四次全国 知事会訪中 代表団	西尾鳥取県知事	知事1名(鳥取県)、副知事5名(東京都 ・愛知県・兵庫県・岡山県・山口県)、随 員3名、計9名	北京市、甘肅省(蘭州・敦煌)、陝西省 (西安)、上海市
8	第4回来日 平5(1993) 11.8～11.18 (11日間)	第四次中国 省長訪日代 表団	賈志傑湖北省省長	省長2名(湖北省・広西チワン族自治区) 、副省長4名(福建省・山西省・山東省・ 安徽省)、随員4名、計10名	福岡県、山口県、鳥取県、福島県、東京 都
9	第5回訪中 平7(1995) 5.29～6.8 (11日間)	第五次全国 知事会訪中 代表団	圓藤徳島県知事	知事1名(徳島県)、副知事4名(福島県 ・埼玉県・富山県・京都府)、随員4名、 計9名	北京市、四川省(重慶)、荊沙市、湖北 省(武漢)、広東省(広州・深圳)、香 港
10	第5回来日 平9(1997) 5.13～5.22 (10日間)	第五次中国 省長訪日代 表団	吳亦俠貴州省省長	省長1名(貴州省)、副省長5名(黒龍江 省・河北省・江西省・湖南省・海南省)、 随員3名、計9名	東京都、埼玉県、群馬県、京都府、大阪 府、奈良県

	期間	団名	団長	構成員	訪問先(省・県名)
11	第6回訪中 平11(1999) 5.31~6.8 (9日間)	全国知事会 第六次訪中 代表団	土屋全国知事会会長 (埼玉県知事)	知事1名(埼玉県)、副知事3名(栃木県・岐阜県・兵庫県)、出納長1名(京都府)事務総長、随員5名、計11名	大連市、北京市、雲南省(昆明)、上海市
12	第6回来日 平14(2002) 5.7~5.16 (10日間)	第六次中国 省長訪日代 表団	陸浩甘肅省省長	省長1名(甘肅省)、副省長2名(吉林・山東省)、副主席1名(チベット自治区)団員4名、計8名	埼玉県、山形県、北海道
13	第7回訪中 平16(2004) 5.10~5.16 (7日間)	第7次全国 知事会訪中 代表団	麻生福岡県知事	知事1名(福岡県)、副知事1名(滋賀県)、出納長4名(岩手県、群馬県、兵庫県、大分県)事務総長、随員3名、計10名	北京市:地域間交流について(都市部における社会資本の整備のあり方)、黒竜江省(ハルビン):産学官の連携について、遼寧省(大連):自然環境等の保全・再生対策について
14	第7回来日 平18(2006) 5.23~5.30 (8日間)	第7次中国 省長訪日代 表団	劉新民 河南省副省長	副省長3名 河南省、河北省、青海省、内モンゴル自治区 団員4名 計8名	東京都、沖縄県、大分県、福岡県 「日中地方政府間での経済、文化、教育メディアにおける交流の強化について」
15	第8回訪中 平21(2009) 9.2~9.6 (5日間)	第8次全国 知事会訪中 代表団	中島孝之福岡県副知事	副知事(福岡県、岡山県、大分県、熊本県)事務局次長兼国際部長、随員7名 計11名	地域経済立直し、地域間交流、環境保護 地域間格差の解消について
16	第8回訪日 平24(2012) 4.17~4.21 (5日間)	第8次中国 省長訪日代 表団	張毅 寧夏回族自治区 書記	書記1名(寧夏回族自治区)、中国人民対外友好協会会長、主席1名(新疆ウイグル自治区)、省長1名(安徽省)、副省長2名(吉林・広西チワン族自治区)、計6名	第1回日中知事省長フォーラム「日中地方政府間交流の促進と日中関係の発展—地域間の経済交流と観光—」 埼玉県、京都府